

千葉教育

梅

令和4年度
No.677

千葉の子どもたちの未来のために

特集

個別最適な学びと協働的な学びの実現

○シリーズ 現代の教育事情
國學院大學人間開発学部初等教育学科教授 田村 学
県教育庁教育振興部学習指導課

○提 言
レモネードスタンド普及協会



千葉県総合教育センター



フィールドワークで郷土愛を

鋸南町立鋸南中学校校長 さかい じゅん 酒井 純



鎌倉殿の13人

今年のNHKの大河ドラマは「鎌倉殿の13人」である。石橋山の戦いで敗れた源頼朝は安房の地に逃げ延び、軍勢を大きくしながら北上し、やがて鎌倉に幕府を開く。その安房上陸の地といわれている場所が、学区の竜島海岸である。この「頼朝上陸の地」をはじめ町内の名所旧跡を巡るフィールドワーク（以下FWと表記）が本校の学校自慢である。

総合的な学習の時間で

このFWは1年生の総合的な学習の時間で実施している。毎年、3年生の修学旅行・2年生の安房地域を巡る宿泊学習と同時期に町内のボランティアガイドを依頼しスクールバスを活用し、勝山方面と保田方面の名所・旧跡を巡る。学年を大きく二分してそれぞれを小グループに更に分けて巡り、途中で入れ替わる。当日までにそれぞれの場所で、調べたいこと、ガイドさんに質問することを準備し臨んでいる。ガイドしてくださるボランティアの方は6人おり、生徒たちに熱心にお話をしてくださる。

名所豊富な鋸南町

FWで回るところは次の通り。

（「鋸南町の歴史」鋸南町教育委員会発行を参照）

【勝山方面】

(1)頼朝上陸地

石橋山の戦いで敗れた源頼朝が上陸したと言われている場所（鋸南町竜島）。石碑あり。

(2)旗立山

先着していた北条時政らが頼朝への目印に白旗を立てたと言われている山。

(3)玉の井

頼朝が鋸南の人々に与えたとされるものは名字などいろいろあるが、これは公飲用の井戸として住人に伝えられたもの。

(4)大黒山（醍醐新兵衛墓）

江戸時代に勝山沖で鯨漁を組織化して行った醍醐新兵衛の墓。

(5)妙典寺

勝山藩義士の石碑がある。

(6)加知山神社

近代教育に力を尽くした野呂道庵をたたえる寿蔵碑（石碑）がある。

【保田方面】

(1)菱川師宣誕生地

浮世絵の開祖と言われる菱川師宣の生地、町内には菱川師宣記念館もある。

(2)別願院

保田海岸近くにある別願院は、浮世絵の創始者・菱川師宣の菩提寺で師宣の墓がある。師宣寄進の大吊鐘があったが、太平洋戦争中、国に供出された。

(3)海水浴発祥地

明治22年、保田を訪れた夏目漱石が記した「木屑録」に自身の海水浴が紹介されており、これを記念して「房州海水浴発祥の碑」が建てられた。

深まる郷土愛

上記以外にも町内には名所旧跡が点在しており、生徒たちはこのFWを通して鋸南町の魅力を再確認し、郷土愛を深めている。

今後もこの素晴らしい活動を継続し、郷土鋸南を愛する生徒を育てていきたい。

- ◆学校自慢 フィールドワークで郷土愛を 鋸南町立鋸南中学校校長 酒井 純
 ◆提言 レモネードスタンド普及協会の活動と小児がん・治療の現状について レモネードスタンド普及協会…2

シリーズ 現代の教育事情 個別最適な学びと協働的な学びの実現

- 令和の日本型学校教育における個別最適な学びと協働的な学び
 國學院大學人間開発学部初等教育学科教授 田村 学…4
 ■「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に向けて 県教育庁教育振興部学習指導課…8

私の実践

- 学校を創る 上機嫌で行こう 富津市立青堀小学校校長 山下秋一郎…10
 ■学校を支える 「背中で支える」 市川市立大柏小学校教頭 進藤 憲一…12
 ■学校を動かす チーム学校の変革期を迎えて 茂原市立茂原小学校教諭 篠田 淳志…14
 ■学校を知る 子供たちのために 香取市立北佐原小学校教諭 立原 愛美…15
 ■学校を知る 学校職員の一人として 船橋市立三山中学校栄養教諭 小林 葵…15
 ■授業を創る 探究的な学びを育む教師の手立てと見取りー総合的な学習の時間を通してー 流山市立八木南小学校教諭 菅沼得理香…16
 ■授業を創る 各教科等を合わせた指導の指導計画～おたすけツールの活用を通してー 君津市立上総小櫃中学校教諭 小幡 愛子…18

活・研究

- 令和3年度長期研修生の研究の紹介 令和3年度長期研修生…20

ケーススタディ～Change the world～

- 「やってはいけない」では「やってはいけない」時代の情報モラル教育 NPO法人企業教育研究会 市野 敬介…24
 ■令和4年度調査研究事業「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究
 ～1人1台端末の活用を通して～」について 県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当…25

幼児教育の今

- 夢中になって遊びこむ子どもを目指して 東庄町立こじゅりんこども園園長 関口喜代美…26

受講者・読者の声

- 登下校の交通マナー向上のために 柏市立田中小学校教諭 小瀧 悠子…27
 ■分からないことだらけの毎日から 習志野市立東習志野小学校教諭 中台 千尋…27

情報アラカルト

- 「令和4年度 全国学力・学習状況調査」結果の活用について 県総合教育センター学力調査部…28
 ■センター研究発表会の案内 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当…29
 ■体力低下・緊急事態宣言 県教育庁教育振興部保健体育課…30

チーム学校の仲間たち

- ことばの教室（言語通級指導教室）の概要 大網白里市立増穂北小学校教諭 松本 京子…32

学校 NOW！

- 我が校の実践 系統的かつ教科横断的な環境学習の実践 SDGs No14「海の豊かさを守ろう」の課題を通して 芝山町立芝山中学校教諭 森 孝行…34
 ■学校歳時記 小中一貫教育のこれまで、そして、これから 千葉大学名誉教授 天笠 茂…36
 ◆発信！特別支援教育 ライフサポートファイルを活用した地域の関係機関との連携の在り方
 ～乳幼児から学校卒業後までを通じて一貫した教育的支援を行うために～ 県立長生特別支援学校…38
 ◆千葉歴史の散歩道 身近な遺跡を歩いて、動画に触れてー東金市道庭遺跡ー
 県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 行木 絢子

道 標

令和3年1月の中央教育審議会（以下、中教審）答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。この中で、子供の学びにおいては、ICTを有効に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であるとしている。これらについては、本誌の令和

2年度と3年度の「学校歳時記」コーナーの中で、天笠茂氏が丁寧に解説してくださっているので、記憶にある方が多いであろう。令和4年4月から高等学校においても新学習指導要領が年次進行で実施されることとなり、幼稚園から高等学校、特別支援学校までの全ての学校種において、新しい教育課程による学びが始まった。本号では、個別最適な学びと協働的な学びをキーワードに、令和の日本型学校教育の実現を目指す取組について取り上げる。教師自らの実践を振り返り、今後の在り方について考える機会となれば幸いである。

レモネードスタンド普及協会の活動と 小児がん・治療の現状について（インタビュー要旨）



レモネードスタンド普及協会

1 レモネードスタンド活動とは

もともとのスタートはアメリカになります。アメリカでは夏になると子供たちがレモネードを作って売る「レモネードスタンド」をあちこちで見かけます。子供たちの職業体験、お小遣い稼ぎとして定着しています。そのなか、アメリカのある小児がん患者の少女が「自分と同じような病気の子供たちのために治療の研究費を病院に寄付したい!」と、自宅の庭にレモネードスタンドを開きました。この活動はテレビなどにも取り上げられ、全米に知られるようになりました。

これを機に、レモネードスタンドはお小遣い稼ぎの体験を楽しむだけではなく、集めたお金を小児がん治療のために寄付するという社会貢献活動として全米に広がりました。

日本の小児がん支援の仕組みづくりは、他の先進国と比べても遅れています。「この現状を、一人でも多くの人に知ってもらいたい。」「一人でも多くの人がアクションを起こしてほしい。」「誰かの役に立ちたい。」という皆様の想いを、小児がんの子供たちを支えるチカラに変えるのが、レモネードスタンド活動です。レモネードをつくって、売ってみる。レモネードを買ってみる。関わった1杯のレモネードは、小児がん治療の発展を待ち望む「だれか」を、救うことにつながります。

2 協会設立の経緯、協会の歴史について

そんな中、日本でもレモネードスタンド活動が広がることを願ってレモネードスタンド普及協会は2016年に設立されました。小児がん治療の研究を発展させるため、レモネードスタンドを広げることが使命です。皆様のレモネードスタンド活動を「レモン果汁の無償提供」、「Webサイトでの開催告知・レポートの発信」等を通じて微力ながら支援を行っています。

設立から6年、社会貢献意識の高い学生さんによる高校や大学文化祭での活動、ご家族や団体による地域のイベントの実施など、少しずつ輪が広がり、2021年は全国45か所で開催、提供杯数8,054杯、計3,518,236円の寄付金が集まり、企業からの寄付金3,030,410円と合わせて全額6,548,646円を小児がん治療の開発をする全国組織である「日本小児がん研究グループ（JCCG）」へ寄付いたしました。



図 レモネードスタンド活動の概要



図 果汁提供から寄付の流れ

3 小児がん・治療の現状

小児がんは一般に15歳以下で発症するがん（悪性腫瘍）のことをいいます。主なものに、白血病、脳腫瘍、神経芽腫、悪性リンパ腫、腎腫瘍などがありますが、種類は多種多様です。日本では年間約2,500人の方が罹患されています。1歳～14歳の子供の死亡原因の第1位にもなっています。（出典：厚生労働省 令和3年度人口動態統計）小児がんは進行が速く、すぐに入院が迫られます。そして、長い治療が必要となるため、お金の問題や精神的な負担が長い時間、ご本人やご家族にのしかかります。

小児がんは、大人のがんに比べると患者数が少ないことから、治療法や薬の研究開発への支援が少ないという現状があります。また、診断が難しいのも特徴です。小児がんの初期は風邪に似た症状が多く、一般の小児科の医師ではがんを見逃してしまうケースもあります。小児がんは種類も多いため、それぞれの専門の医師が少なく、最適な診断のできる医師がとても不足しています。小児がんの治療方法を確立するためには患者さんの治療データの収集、薬や治療方法の開発、遺伝子研究の推進などをはじめ、多くの資金が必要であり、皆様の御理解と支援が必要となります。

また、子供の成長を考えた時に、治療・入院期間中であっても学びや発見・経験は必要不可欠です。オンライン授業などの学びが届くような体制の構築、そのような学びに対応することのできる人員の確保や養成が必要となります。GIGAスクール構想をはじめとす

るICT機器の整備、教員や学びの担い手の確保、そして養成の両軸の環境整備をこれから考えていかなければならないと考えています。

4 今後の協会としての展望

今後も世の中の多くの人に小児がんの実態の理解を図ることや支援の輪を広げるためにレモネードスタンド活動の普及や充実につなげていきたいと考えています。

年間のべ365日以上で開催、つまり1日1回以上、日本のどこかでレモネードスタンドが開催されている社会が目指す姿です。開催が増えることで多くの方に知っていただける機会となるので、更に輪が広がっていくと思っています。

5 千葉県の教職員に向けて

上記のとおり、まずは、小児がんの実態・支援に繋がるレモネードスタンド活動のことを知っていただきたいと思っています。そして、現状を知った上で是非、御自分ができる支援にはどんなものがあるか考えていただきたいと思います。どんなことでも構いません。学級での関連書籍・絵本の読み聞かせ、会議や打ち合わせの後に、レモネードスタンド活動や寄付や支援の方法を他の職員へ紹介すること、実際にレモネードスタンド活動を行っている場所に足を運んでみる…等、どれも小さな活動だと思います。しかし、一人一人のその小さな一歩が大きな力となります。たくさんの支援の輪が教育の世界にも広がることを願っています。

是非、協会のHPもご覧ください。

<https://www.lemonadestand-pa.jp/>



令和の日本型学校教育における個別最適な学びと協働的な学び

国學院大學人間開発学部初等教育学科教授 田村 学



1 令和の日本型学校教育答申はなぜ出されたのか

令和3年1月26日、中央教育審議会は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）を出した。学習指導要領が改訂されたのは平成29年である。小学校における全面実施が令和2年、中学校では令和3年になる。新しい学習指導要領が実施されていく最中の答申について、多くの方が「なぜ今？」と疑問に思われたのではないだろうか。教育課程の基準が改訂され、学習指導要領が告示され、各学校には「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業改善が期待されている中、「個別最適な学びと協働的な学び」といった新しい言葉が示されたことに、いくらかの驚きと違和感を感じている方もいるのではないだろうか。

このことについて、私たちはどのように理解すべきだろうか。一つは、それだけ激しい変化が起きていることと考えることができよう。新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、オンラインを使った学びが求められ、加速度的に広がってきたように、学校教育を取り巻く状況が劇的に変化し始めていることを認識しなければならない。Society5.0時代と言われていた社会は一気に目の前に現れてきている。過去における学校教育の良さを踏まえながらも、大きな変化は待たなしで進めていかなければならない状況にあると理解することができる。その象徴的な施策に

GIGAスクール構想やSTEAM教育の推進などが挙げられよう。

もう一つは、本来期待していた豊かな学びは変わるものではなく、異なる文脈からの説明であると考えることができよう。つまり、「主体的・対話的で深い学び」は、能動的な学習、いわゆるアクティブ・ラーニングの文脈から示された期待する学びの姿である。一方、「個別最適な学びと協働的な学び」は、一人一人の個に応じた学び、いわゆるアダプティブ・ラーニングの文脈から示された期待する学びの姿である。期待する豊かな学びを角度を変えて示していることであり、決して違うものを目指すようなことではない。これまでと同じ資質・能力の育成に向けて、授業改善を進めていくことと理解することができる。

このように考えるならば、教育を取り巻く状況が大きく変わる中、令和の日本型学校教育の構築として「個別最適な学びと協働的な学び」が示されたことの意味を理解することができる。子供が自ら学びに向かうことを大切にするとともに、一人一人の子供に応じた学びの充実に、今まで以上に意を配らなければならない。また、そうした学びの実現のための指導の在り方や学習環境などを見つめ直さなければならないことを確認しておきたい。

2 答申で目指すものは何か

答申で着目すべきは、「3. 2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿」にある。ここでは、「一人一人の児童生

徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」としている。この表現は、今回の学習指導要領において位置付けられた前文と同じであり、方向性が変わるわけではないとしてきた先の記述と重なるものである。

答申の3には、「(1) 子供の学び」の項があり、私は、ここの記述に注目すべきではないかと考えている。学習指導要領と変わることのない資質・能力の育成を目指しているものの、その文脈がいくらか異なり、基盤とする背景に違いが生じた場合、具体的にどのような学びをイメージすればよいかが明らかにされていると考えるからである。

3 注目すべき「子供の学び」

「子供の学び」においては、その冒頭から「我が国ではこれまでも、学習指導要領において、子供の興味・関心を生かした自主的、主体的な学習が促されるよう工夫することを求めるなど、「個に応じた指導」が重視されてきた」とし、「個に応じた指導」の重要性を再確認している。一人一人の子供に応じた学び、個に応じた学びを充実させることを中心に「子供の学び」の項が論述されていることが分かる。

答申では、「個に応じた指導」を教師視点から整理した概念とし、学習者視点から整理した概念を「個別最適な学び」としている。その上で、「個別最適な学び」を「指導の個別化」と「学習の個性化」とに整理し、以下のように示している。

「全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力、判断力、表現

力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの『指導の個別化』が必要である」

「基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する『学習の個性化』も必要である」

「個別最適な学び」は、一人一人の子供が知識を習得したり、活用したりして確かな資質・能力を身に付けていくことを期待している。また、それぞれの子供に応じた課題を、本気で真剣に解決に向かって取り組む探究などによって、実際の社会で活用できる資質・能力が育成されていくことを期待している。今回の学習指導要領改訂の基本理念とも言える「学習する子供の視点に立つ」とする考えを、さらに確実に一人一人に実現していこうとする方向性が鮮明である。

4 「協働的な学び」がなぜ求められるのか

この一人一人に応じた「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、これまでも多くの学校が取り組み、優れた実践を生み出してきた「協働的な学び」の重要性が明確に示されている。

「令和の日本型学校教育」においては、こ

れまで以上に一人一人の子供に応じた「個別最適な学び」を重視することが期待される。そのことは、一方で、これまで以上に「協働的な学び」が欠かせないものであることをも示している。つまり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は相互に補完し合う関係にあり、両者は支え合い、往還し合うことによって、子供一人一人の学びは豊かさを増すと考えることが大切なのであろう。

実際の授業で、学習者である子供に聞いてみると、このことの確かさが明らかになる。ある子供は、次のように語っている。

「クラスみんなで話し合ったり、意見をもらったりすると、自分の考えを広げていくことができる。たくさんの発言を友達に伝えていくことができ自信にもなる。発言することで、自分で考えることにもなるし、話し合いをする中で、自分の考えがはっきりしてくる。」

このように個の学びは、集団の学びによって一層磨きをかけられ、確かさを増すことになるのであろう。両者は行きつ戻りつしながら、それぞれに高まっていく。

5 「協働的な学び」の価値

では、「協働的な学び」には、どのような価値があるのだろうか。子供の姿から考えてみたい。総合的な学習の時間で、平和について探究している以下の子供の会話の様子を参考に検討していく。

子供が自ら創作した平和劇の台詞「あなたは一人じゃない、あなたの後には、未来を託した人がある」について、教師は次のように発問した。

教師：「この台詞が最も大切だと考えるのはなぜですか？」

最初に発言したAは次のように語った。

A：「お母さんに守られていて無傷だった。お母さんが子どもに未来を託したんだと思う。」

Aの発言に続いてB、C、Dと子供の発言が続いた。

B：「戦争が二度と起きてはほしくないって感じがするな。」

C：「くじけても助けてくれる明日への言葉って感じがするよ。」

D：「私は、亡くなった人の思いがあると思う。自分の分まで生きてほしいと願っていると思う。」

三人の発言を聞いたAは再び手を挙げて語った。

A：「原爆直後に亡くなった人もいる。放射能で亡くなった人もいる。戦争が二度と起きないように、そうした多くの人の思いが、明日の未来に向けて僕たちに託されているんじゃないかな。」

子供の学びの姿について認知的な側面から、「協働的な学び」における次の三つの価値を見出すことができる。

- ①異なる情報やたくさんの情報を入手する
- ②表現することで自らの認識を再構成し構造化する
- ③情報を提供し合い、関連付けて、知を創出する

このように互いの意見交換や話し合いによって、子供の学びは期待する方向に高まり、資質・能力が育成されていく。

このことを「主体的・対話的で深い学び」と照らし合わせて考えると次のようになる。「主体的・対話的で深い学び」では、学習する子供が、知識や情報をインプット（内化）し、それをアウトプット（外化）する認知プロセスを活性化することが大切になる。そのことは、これまでのインプット中心だった教



室でのパッシブ・ラーニング（受動的学習）を、知識を活用・発揮しアウトプットするアクティブ・ラーニング（能動的学習）への意識転換と考えると分かりやすい。

大切なことは、そうした認知プロセスが活性化する学びにおいて、自らの意志の下、自覚的、目的的に学びを進めることが大切であり、そのことこそが「主体的な学び」を意味する。まさに、学びが自律的になることを期待している。そこでは、友達や周囲の人たち、文献などから知識や情報を手に入れることが可能となり、それを他者に伝え表現する「対話的な学び」が行われる。そして、そこには新たな知が創造される。まさに学びが協働的になることが期待されている。こうした学びにおいては、頭の中がフル回転して、バラバラだった知識がつながり、ネットワーク化し構造化していく「深い学び」が実現する。

この関係を知識の「粒」が組み立てられ「塊」になると考えると分かりやすい。粘土の粒を組み立てると造形作品が完成する。レゴブロックを組み立てると街ができるイメージである。先の子供の姿を重ね合わせてイメージを膨らませてほしい。「協働的な学び」の価値が具体的に見えてくるのではないだろうか。

さらに、「協働的な学び」の态度的な側面からの価値を整理するならば、次の三つが考えられるのではないか。

- ①異なること、多様であることの価値を実感する
- ②関わり合い、力を合わせることの価値を実感する
- ③開かれること、共有することの価値を実感する

異なる多様な他者との協働は、先に示した三つの価値を実感することにつながる。そのことは、一人一人の子供の具体的な行為へと結び付き、態度化へと高まることが期待でき

る。「協働的な学び」は認知的な側面だけではなく、态度的な側面においても意味があり、価値のある学びと考えることができる。

この「協働的な学び」は、ICTやオンラインの環境を整えることでさらに大きく飛躍していく。デジタルデータを使うことで、時間と空間を超越した学びが展開され、これまで創造し得なかったような「協働的な学び」も実現する状況が整いつつあることも付け加えておきたい。

6 問われる学校という社会資本の価値

Society5.0時代を迎え、子供の学びを「個別最適な学び」へと方向付けていくとともに、「協働的な学び」の大切さも示してきた。このことは、学校という社会資本の価値を再認識することでもある。学校には、力を合わせたり、交流したりして、課題を解決し目標の実現に向かっていく仲間がいる。また、教師の高度で幅広い指導により、学び合いが質高く実現する。さらには、意図的で計画的なカリキュラムによって、「協働的な学び」が豊かに展開されていく。

これまでも大切にしてきた「協働的な学び」は、令和の時代に入り、これまで以上に欠かすことのできない学びとなっている。

【引用・参考文献】

- ・中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（令和3年1月26日）

「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に向けて

県教育庁教育振興部学習指導課

1 はじめに

令和4年4月から高等学校においても新学習指導要領が年次進行で実施されることとなり、全ての学校種において、新しい教育課程による学びが始まった。

学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善などが示されている。

令和3年1月26日の中央教育審議会答申では、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言された。

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、児童生徒の資質・能力育成のため、各教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、“指導の個別化”や“学習の個性化”などの「個に応じた指導」を一層重視していくこと。探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成していくことが求められている。

一方、学習指導要領の公示以降、GIGAスクール構想により、全国の学校にICT環境を最大限に活用していくことが求められている。

令和3年度からは、すべての公立小中学校において1人1台端末が整備され、学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT環境を最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学

び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要視されている。

2 千葉県における取組

県教育委員会では、令和4年度より学習指導課内にICT教育推進室を新設するとともに、ICTの活用による、よりわかりやすい授業、児童生徒の資質・能力の向上に資する有効な活用法の研究や周知に取り組んでいる。

以下に、主な取組について紹介する。

(1) ICTを効果的に活用して、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を一層進めるためのチェックリスト等を各学校に配付

新たに学校教育における基盤的なツールとなるICTを効果的に活用することで、これまでにない量・質のデータを収集・蓄積・分析・活用し、習熟の程度等、個々の特性にあった多様な方法で児童生徒が学習を進めることや、グループ等により時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を蓄積・送受信し、今までにない方法で、多様な人たちと協働しながら学習を行うことができる可能性が高まっている。

県教育委員会では、“ICTを効果的に活用して”、“主体的・対話的で深い学びの実現”に向けた授業改善を一層進めるためのチェックリストを作成し、県内公立学校に対して配付している。

資料リストは、「日常的にICTを学習に活用するために児童生徒に必要な基礎的・基本的な技能及び態度」(スキルチャート)と「ICT活用シート」の構成となっており、各学校で



の積極的な活用を求めている。

【参考資料】

ステップ2 (3・4年生程度)	ステップ3 (5・6年生程度)	ステップ4 (中学生程度)
1分間に○文字以上	1分間に○文字以上	1分間に○文字以上
・キーボードなどによる文字の正しい入力方法	・キーボードなどによる文字の正確な入力	・キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力
・電子ファイルの検索	・電子ファイルのフォルダ管理	・電子ファイルの運用（圧縮・パスワードによる暗号化、バックアップ等）
・文書、表、スライドの操作、作成、移動、複写、削除、プリントスクリーン、スクリーンショット	・プレゼンアプリでの発表用資料の作成	・表計算アプリで表・グラフ作成、計算式、関数の使用

(スキルチャート抜粋)

ICT活用シート	
〈「ICTが効果的に活用されていたか」学習場面を振り返り、次時の指導に活かす〉	
個別学習	協働学習
☐ ①習熟の程度に応じた学習をしている ☐ ②興味関心に応じた学習をしている ☐ ③情報を正しく収集している ☐ ④資料の作成をしている ☐ ⑤作品の制作をしている	☐ ⑥グループでの話し合いをしている ☐ ⑦学級全体での話し合いをしている ☐ ⑧意見の共有をしている ☐ ⑨分担して資料の作成をしている ☐ ⑩分担して作品の制作をしている ☐ ⑪他学級、他校、地域等との交流を通じた学習をしている
一言一言	☐ ⑫教師が、教材の提示や説明等をしている

(ICT活用シート抜粋)

(2) ちばっ子学び変革推進事業（ICT活用実践校）の取組

令和4年度から県立高等学校において、いわゆるBYOD端末による1人1台端末環境をスタートし、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実施することになった。しかし、1人1台端末活用初期ということもあり、ICTを活用した実践事例の数が少なく、各学校において参考となる事例等が不足している。

そこで、県立高校13校をICT活用実践校に指定し、以下2点の取組を通して、各地域のICT活用情報発信拠点として、教育活動におけるICT活用方法や実践事例を広く周知することを目指している。

- ① 各教科等の指導等において、情報及びこれを活用する能力を教科等横断的に育成する。
- ② 学区内の小・中学校等と連携を図り、小・中・高12か年を見通したICT活用方法を体系的に整理し、その成果を周知する。

【取組の詳細】

- ・県教育委員会、または県総合教育センターが主催するICT活用に係る研修会にて実践事例を発表する。
- ・作成した指導計画に基づき、各教科等

において授業を実践し、その取組を検証する。

- ・地域の小・中学校等との交流を通して、1人1台端末環境下における小・中学校の教育活動を把握し、高校段階において求められるICTを活用した指導方針等をまとめる。
- ・上記以外に、学校独自のICTの効果的活用や普及に関する取組を奨励する。

(3) 令和3年度「中学校教育課程の展開」を作成し、全公立中学校へ配付

令和3年度に作成した「中学校教育課程の展開」では、ICTを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業実践を取り入れ、全公立中学校へ配付している。



「R3中学校教育課程の展開」

(4) 学校訪問時に「ICT機器活用」の充実について、取組の状況を確認

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向け、令和4年度から各教科とも「ICT機器活用」の充実を掲げ、学校訪問時に取組の状況について確認し、各学校へICTを積極的に取り入れた授業改善を促している。

3 これからの学校での取組に向けて

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現については、これまでの教育実践の蓄積に加えて、新たに学校における基盤的なツールとなるICTを上手く活用して初めて効果が出るものである。

そのためには、各学校で校内研修体制を構築し、どういう目的で、どの場面でICTを活用することが有効かを考え、方向性をそろえて授業改善に取り組むなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要となる。



上機嫌でいこう

富津市立青堀小学校校長 やました しゅういちろう 山下 秋一郎



○ はじめに

7月のある日、学校をつくるというテーマで原稿依頼を打診された。本校は令和10年度の新校舎完成を目指して、今年度から「富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会」を立ち上げ、検討を重ねている。そのことをどこかで聞きつけての原稿依頼と思い、それなら書けるだろうと安易に考え引き受けた。ところが、送られてきた資料を読むと校長としての理念や学校経営の実践について書けと記してあるではないか（そっちの創るか）。私も校長だから、それなりに学校経営は行っているつもりだが、学校を創ると言えるような特色ある実践はしていない。若手職員の育成や生徒指導の充実などに力を入れているが、特に独自の手立てを講じているわけでもない。これは困った。何とかしなければ。しかし、校長が困った顔、不機嫌な顔をしているわけにはいかない。常日頃、上機嫌でいこうと職員に話しているのだから。上機嫌でいこう、そうか、これなら書けそうだ。

○ 上機嫌でいこう

学校要覧に次のように書いた。

不機嫌な人のところには人も情報も集まらないだけでなく、周りの人を不愉快にする。組織として生きていく上では一人ひとりが上機嫌で過ごすことがとても大切。子供に対しても、職員同士でも、保護者に対しても。もちろん家族にも。「春風を以て人に接し」、毎日を上機嫌で過ごそう。

子供も職員も保護者の方も、みんなが上機嫌で過ごせるように、少しずつ積み重ねてきたことを紹介する。微々たる取組であるが、これが私の学校を創るになるのだろう。

まずは、あいさつから

1年目に学校教育目標を変えた。誰もが覚えやすいように青堀の文字をもとに「あ：あいさつする子、お：思いやりのある子、ほ：本気で学ぶ子、り：リーダーになる子」。また、9つある経営の重点の一つとして、1年目は「あいさつをすべての突破口に」、2年目は「あいさつの輪をカラスまで」とし、あいさつの励行に取り組んでいる。上機嫌で過ごすためには、何より人と人との円滑なコミュニケーションが大切。あいさつをその第一歩と考え、保護者、地域を巻き込んで取り組んでいる。今年度から立ち上げた学校運営協議会でも取組の柱として位置付けている。

ユーモアのある情報発信を

職員に、保護者に情報をいろいろな形で発信する。その際に、どこかくすっと笑えるような部分を作ることを常に意識している。たよりを読んで、ホームページを見て、笑顔になってほしいという願いがある。学校から配布される文書は非常に多い。これだけ情報が氾濫しているなか、堅い話だけでは最初から読んでもらえないのではという危惧もある。

学校だよりでは、「校長のひとこと」というコーナーを最後に設けて、子供たちとの関わりを紹介している。実際のたよりから一つ紹介する。

先日、1年生の教室に入った時のことです。
「校長先生、名札の安全ピンが取れたので、
つけてください。」

おあい御用、素早くクリアできました。

「校長先生、ひもがほどけなくなっていました。」

老眼なので目を細めながら、こぶをほどこいて何とかクリア。さらに、

「校長先生、お友達の髪の三つ編みがほどけてしまいました。」

……無理です。担任の先生を探しに行きました。

また、職員へのたよりは、校長の考えを伝えるとともに、職員の頑張りを認める場でもあるという考えのもとで発信している。最後に「上機嫌」という項目を設け、学校だよりと同様に、校内のエピソードを紹介して、笑顔で読み終わられるようにしている。

ホームページは毎日更新し、ほほえましい子供たちの姿をアップし、心が温かくなるようなコメントを心掛けている。興味があったらご覧ください。

職員、子供への声掛け

毎日、教室を回って、職員と子供の様子を観察する。そして、空いた時間に子供の姿をもとにして職員と話をする。授業について評価をするときもあるし、指導をするときもある。しかし、子供の成長ぶりを話題にして、一緒になって喜ぶ時が最も多い（もしかすると、この声掛けが、職員の在校時間の増加につながっているのかもしれない）。

また、何か面白いことはないかと若手職員に声を掛けることもある。それが、バレーボールやバスケットボールなどの職員レクにつながる。運動会でもマル秘メニューとして、職員リレーを行うことができた。もちろん、子供にも保護者にも大好評だった。

朝、ゴミを拾いながら、登校指導をする。「おはようございます」のあいさつとともに子供たちとの会話を楽しむ。また、自転車に乗って学区を回り、登校指導するときもある。遠くから「おはようございます」と声を掛けると、子供たちがびっくりしたり、笑顔になったりして応えてくれる。見送りに出ている保護者の方とも話ができるチャンスだ。さすがに、授業中の声掛けは慎んでいるが、休み時間や担任がいないときなど、教室で交流を楽しんでいる。楽しみ過ぎて、戻ってきた担任から冷たい視線で見られることもある。昼休みから清掃の時間帯も子供と交流できる貴重な時間。

667名の子供の顔と名前を一致させることが目標だが、子供がマスクをしているためか、年齢による記憶力低下のためか、なかなか進まないのが悩みである。

職員にも子供にも積極的に声を掛けて、よりよい人間関係をつくる。それを積み重ねることで、互いに上機嫌で過ごせるようになると信じてこれからも声を掛け続けていく。

○ むすびに

「元気な人がリーダーではなく、周りの人を元気にするのがリーダー」という言葉を聞いたことがある。目指すのはこれである。声を掛けたり、情報を発信したりして、職員、子供、保護者を少しでも上機嫌にしたい。

実際、学校では毎日、様々なことが起こる。頭を抱えるようなこともある。それでも、職員が正面から課題解決に向き合ってくれているので、学校経営が成り立っている。本当にありがたい。感謝の気持ちを忘れずに、残り数か月、頑張りたい。くれぐれも、「上機嫌なのは校長だけ」と言われないようにしたいものだ。



「背中で支える」

市川市立大柏小学校教頭 しんどう のりかず 進藤 憲一



1 はじめに

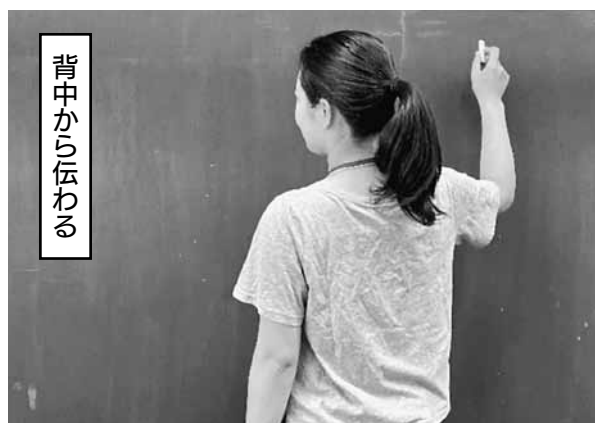
「千葉教育」に寄稿のお話を受けてから「学校を支える」ことについて考える機会が増えた。“自分は本当に学校を支えられているのか”まさにその点についてである。

教頭の職を拝命して2年目。反省しきりの日々だが、以下には自分が意識して行っている実践についてまとめたいと思う。

この原稿を読んでもくださる皆様には、目新しい内容は全くないかもしれないが、ご容赦いただけると幸いである。

2 背中で語れる大人になりたい

さて、「どんな教師になりたいか」という問いに、よくこのように考えていたことを覚えている。「背中で語れるような大人になりたい」と。Society 5.0、ICTを活用した教育や業務改善、個別最適な学び、などなど、いわゆる「令和型」と呼ばれる教育実践や変革が必要な時代に、かなり古臭い“昭和”な考え方だと我ながら思い知らされるが、担任の



担任の背中から伝わるものとは。

時代も、教頭としての日々もそのような心情で取り組んできた。余談になるが、自分の憧れの人物像は、昭和を飾った銀幕のスターの一人。不器用な感じの、と言ったら伝わるだろうか。

3 「支える」を意識しているとしたら

自分が意識して行っていることを振り返ってみると当たり前の実践しか浮かんでこない。唐突ではあるが、自分が勤務している市川市の教育の基本理念“つなぐ”という側面から実践をまとめてみる。

(1)ただひたすらに健康観察

職員とのつながりを意識していることの一つとして、出退勤時の健康観察がある。自己の健康管理については、社会人である以上、自己責任の側面が大きい。しかしながら、本人も知らないうちに健康を害してしまう教職員は多く、これは全国的にも問題になっている。気になった職員には声を掛ける。校長、養護教諭、学年主任、気のおけない同僚と連携し寄り添う。教職員を支える実践としては、ただひたすらこの点に尽きると思う。

(2)ただひたすらにコミュニケーション

ただひたすらに、ということではという職員とのコミュニケーションもその一つである。紹介できる内容としては、放課後の施錠・見回りをその機会と捉えているということだろうか。通常では、15分から30分程度で終わることができるが、時には見回り小一時間ということもある。

誰でも話し合える雰囲気の醸成。月並みな表現になるが、諸問題を引き起こす多くの原因はコミュニケーション不足であると感じる。この行動が教職員間の望ましい関係づくりに役立っているとうれしいのだが、そう願うばかりである。



安心して。成績処理は効率的にできるよ。

(3)一緒に（保護者・地域とつなぐ）

本校は、市川市の北側に位置し自然豊かな地域である。PTA活動は令和3年度から、学級役員を置かず「完全ボランティア制」に移行している。また、学校と地域の連携を推進するコミュニティスクールとしての活動も比較的に充実している。つまり、保護者・地域とも学校の教育活動に協力的であると言える。

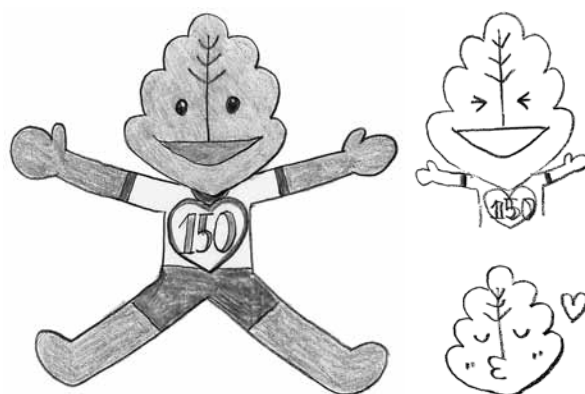
このような本校でも、保護者対応や地域との連携に悩んでしまう教職員は多い。そこで意識していることとしては、やはり一緒に対応することだと思う。トラブル対応はもちろんだが、教育相談として面談に参加したり、地域学習の支援をしたりと、担任と保護者、職員と地域をつなぐという面で教頭が担う側面は大きいと感じている。

(4)学校教育目標とつなぐ（行事を通して）

本校の学校教育目標は「心豊かな子どもの育成を目指して」その中でも重点として挙げられているのが、「主体性の伸長」である。

教育活動の中で、コロナ禍の2年間、最も高められなかったのが“行事を通しての主体性の育成”ではないだろうか。令和5年2月に創立150周年を迎える本校は、11月に周年行事を控えている。“児童自身が創り上げる”をテーマに準備を進めているところである。

児童の主体性だけでなく、教職員の主体性について育成していく必要がある。教頭としては助言する程度だが、いろいろな面で自分も参画させてもらっている。下のイラストは、担当職員が全校児童に呼び掛け、寄せられた作品の中から決定したものである。その後、運動会などさまざまな場面で「かしわいごまるくん」に扮した児童が行事を盛り上げている。



イメージキャラクター「かしわいごまるくん」

4 おわりに

まとめてみると頭に浮かぶのは「自分は、本当に背中で語れているだろうか、学校をしっかり支えられているだろうか」であり、答えは出ないままである。先にも述べたが反省ばかりである。（もちろん、あこがれのスターには近づこうはずもなく。）

ただ、少なくとも自分自身「楽しく人生を歩んでいる」という背中にはなれるよう、今後も学校を、職員を“支える”努力をしたい。



チーム学校の変革期を迎えて

茂原市立茂原小学校教諭 しのだ 篠田 あつし 淳志



1 はじめに

本校は児童数274名、学級数14（うち特別支援学級2）学級の中規模校であり、創立149年を迎える歴史と伝統ある学校である。私は本校で新採となり、複数校勤務し、縁あって再び本校に勤務している。現在6年目を迎え、教務主任としては3年目となる。

2 教務主任としての取組

(1)管理職と教職員との架け橋

管理職と教職員の間に教務主任が太いパイプでつながることが信頼関係を維持し、安定した学校になると考える。本校は職員間の雰囲気や風通しがよく、何事も一丸となって取り組めるチーム力が強みだと感じている。私は職員間で話題となった内容を整理し管理職へ提案したり、事前に管理職から今後取り組む内容を伺い、教職員へ周知したり意見を聞いたりしている。校長が示す学校教育目標の具現化を図るために、気持ちのよい職場となるよう、常に取り組んでいる。

(2)学力向上と授業力向上に向けた取組

児童の学力の向上は、教育課程を編成する中で、担任がいかに授業改善し授業力を向上できるかにかかっている。その課題を実現するためには教職員の時間を作ることが重要となる。本校では今年度、教育課程の編成を工夫し、3教科で専科指導を導入している。学級担任は専科指導の時間を活用して授業準備、資料作成、ノート指導等に時間を充てることができ、児童は専科指導による専門知識を生かした指導を受けることで意欲的に授業に参加でき、双方にとってよい影響を与えている。

(3)若手育成への取組

14名の学級担任のうち、30代までが8名と若手職員が多い。若手育成は児童の成長に直結する大変重要な課題である。そのため、学級経営や教科指導を中心に悩みを聞くことに努め、アドバイスをしたり、学年主任に話をしたりしている。また、率先して動き、若手の気付きや手本となるよう心掛けている。

(4)保護者・地域への取組

新型コロナウイルスの影響により、授業や運動会の参観等学校へ来校する機会が激減した。学校評価アンケートでも学校の様子が見えないという意見がでた。そこで児童一人一人の学習の様子やできる限りの行事の様子を伝えていく方法として、ホームページをより積極的に活用した。行事の取組はもちろん、普段の授業や休み時間の様子等コロナ禍の中でも工夫しながら児童が安全に過ごせている様子を伝えている。アクセス数も増え、地域の方からも生活様式の変化がある中でも児童の楽しそうな姿が見られ、元気をもらえるとの声が聞かれ、効果が出ていると感じる。

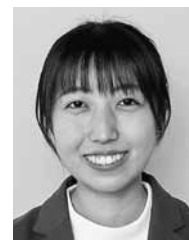
3 おわりに

感染症対策による生活様式の変化、ICT機器の活用による学習方法の変化、教職員の働き方改革による職務方法の変化等様々な角度からの変革期を迎えている。変わらないのは目の前の子供たちである。根底にある「全ては子供たちのために」を合言葉に、今後もチーム学校として円滑に機能していけるように努力をしていく所存である。



子供たちのために

香取市立北佐原小学校教諭 たちはら 立原 あみ 愛美



「愛美って、叱れるの？」これは、友達からよく聞かれることである。1年目の私は、「子供たちを褒めて伸ばしたい」という思いが強く、叱ることに苦手意識をもっていた。そのため、叱るべきタイミングを逃してしまい、けじめのない学級の雰囲気にも頭を抱える日もあった。そんな時、初任者指導の先生や先輩の先生方に相談すると、「先生が子供たちの良くない行動をスルーしたら、子供たちのためにはならない。その瞬間の指導が大切だ。」と教えてくださった。私はこの言葉を聞き、教員としての責任の大きさを感じた。

今年度は、1年生を担当している。元気いっぱい、天真爛漫。時には、友達同士でぶつかってしまうこともある。その時、時間はかかるが一人一人の話を共感的に聴きつつ、間違っていることは理由と共に伝えて、これからどうすべきかを考えさせるようにしている。解決した後の子供たちは嬉しそうな表情で、また一歩成長した姿がある。指導すべき時は、子供たちにとって成長のチャンスである。これからも頑張った時は思い切り褒め、指導すべき時は毅然とした態度で叱り、子供たちの成長のために粘り強く指導していく。

今年で、教員2年目を迎えた。まだまだ未熟な点も多いが、先輩の先生方や同期、子供たちや保護者の方、そして家族の温かさに支えられて今がある。これからも、常に学び続ける姿勢と感謝の気持ちを忘れず、「子供たちのため」に日々全力を尽くしていきたい。



学校職員の一員として

船橋市立三山中学校栄養教諭 こばやし 小林 あおい 葵



栄養教諭は全国に約6700名いる。学校の職員でありつつ、一日の大半は給食室で調理員さんとともに仕事をしている。安心安全で学びのある給食提供と食に関する指導を一体のものとして行うことが職務である。船橋市では、全校自校式で給食を提供しており、栄養教諭・学校栄養職員が1校に1名配置されている。一人職ということもあり、着任当初は何が分からないのかも分からない状態だった。また、生徒との関係性をどう深めていけばよいのかも分からず、日々の仕事は給食業務で手いっぱいの状態だった。自分のできていないところにばかり目がついてしまい、理想と現実のギャップに気付きながらも、何から手を付ければよいのか分からなかった。

「目の前の生徒や三山中学校に対して自分ができることをやってみよう。」働いていく中で、毎日の給食時間での生徒との触れ合いはもちろん、何気ない雑談、清掃活動、委員会活動など学校生活を生徒とともに過ごせることに価値や学びがあると気づいた。自校式であるからこそ、生徒や職員との距離が近く、栄養教諭が学校職員の一人として毎日いるという環境は、非常に恵まれている。この環境を生かし、生徒に寄り添った食に関する指導を行っていききたい。「食を通して何を生徒へ伝え、考えさせていくことができるのか。」2年目を迎え、生徒や職員との関係性が深まっていく中で今できることをやっていきたいと思う。



探究的な学びを育む教師の手立てと見取り —総合的な学習の時間を通して—

流山市立八木南小学校教諭 ^{すがぬま}菅沼 ^{えりか}得理香

1 はじめに

現在の学習指導要領は、探究的な学びが推進され、小学校から高等学校まで全面実施となった。探究的な学びの主な目的は、学力の向上や、変化の大きい時代の中でも生き抜く力を育むことである。特に、総合的な学習の時間においては、他の教科に比べて協働的、探究的な取組の中で、子供が確かな手応えを実感して学ぶ場面が多く見られる。

以下は、3学年で展開している総合的な学習の時間について、授業づくりや評価について取り組んでいることを紹介する。

2 授業について

子供たちが給食を通して、地域で作られるねぎの魅力をアピールする授業計画を立てた。子供の実態から、グループで対話する活動や、地域の方と関わる場を積極的に設け、普段の生活や学習との関連を図れるようにすることが必要であった。

学校教育目標の「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」ができるよう、総合的な学習の時間を通して有効な手立てを考えた。

(1)材を選ぶ

総合的な学習の時間の学習は、社会に直接関わりながら学ぶことができるよさがある。子供にどのような環境を用意し、どの程度の時間を設定するか考え、意図的で質の高い指導を目指した。

(2)効果的に外部の学び手と出会わせる

コロナ禍で、見学や外部との交流をオンラインで工夫する機会が増えたが、対面や実体験だからこそ得られる学びや、喜びがあるのも事実である。実際に自分たちで野菜を育て、収穫し、袋詰めを体験するからこそ愛着がわく。毎日食べている給食のねぎが、自分の収穫したものだとわかれば「給食のねぎ」から「私のねぎ」と身近になり、家庭でも積極的に話題にするようになった。

(3)予想させる

活動の前には、どのようなことが起こりうるかを子供に予想させ、目的をもたせるようにしている。目的があるので、子供たちは主体的になる。実際にどうであったかを予想と比較したり、日常生活と関連付けたりしながら考えることができるからである。

下の写真は、子供たちがアンケート調査をする場所で、何をどのように聞いたらよいのか想像し、予想させた時の様子である。



調査に行く朝の時間帯は、急ぐ人が多いと予想し、答えてくれない人がいるかもしれないと考えた。また、赤ちゃんを連れている人

に元気な声で話しかけたら驚くかもしれない等、具体的にイメージしていた。課題を解決しようと、友達の意見を受け入れながら考えるため、グループでの対話が活発であった。

(4) ICT 機器の活用

従来、子供たちが地域の実態を調査する際は、質問内容を考えアンケート用紙を作成し、町に出て調査し、集計して分析していた。「集計」の作業をPCがその場で正確に行えるため、大幅な時間短縮につながっている。また、分析する時間を十分に設けられるようになった。今回は、アンケートフォームを使用し、子供が質問内容を考え、教師がPC画面を全体に共有しながら打ち込み、質問紙を作成するようにした。しかし、一人では操作が困難な子供や、機器を持ち出せない場合を考慮する必要がある。そのため、発達年齢を考慮し、質問紙でも行えるようにした。

3 評価について

(1) 実態調査

子供の実態を調べる際は、全国学力・学習状況調査の「総合的な学習の時間」及び、「子供につけたい資質能力」に関連する項目を抜粋し質問紙調査を行っている。勤務校では、「主体的に学習に取り組む態度の評価の見取り」について研究しており、それに関連する項目も抜粋した。しかし、従来のこの調査だけでは質問数が少ない。そこで、「主体的に学習に取り組む態度」を5つに分類し、子供の具体の姿を言語化したもの【表1】を質問に加えた。

子供のどのような姿を「粘り強く」取り組んでいると判断し、何をもって「学習の調整」をしているとみなすのか等、教師が適切な見取りを行えるようにした。それを評価の指標とし、学習活動もそれに沿って形成した。

更に、子供と教師が同じ視点で評価できるように、【表1】を子供に4段階で自己評価させた。

【表1】主体的に学習に取り組む態度の評価規準

協調性	①	誰とでも力を合わせることができますか
	②	相手の立場に立って考えられますか
誠実性	③	何ごとにも粘り強く取り組んでいますか
	④	見通しを持って取り組んでいますか
安定性	⑤	いつでも、同じように友達と接していますか
	⑥	誰に対しても変わらず、友達と接していますか
開放性	⑦	友達の考えや意見を受け入れていますか
	⑧	違いがあることは良いことだと思っていますか
外向性	⑨	自分から進んで取り組んでいますか
	⑩	様々な人と話したり行動したりしていますか

(2) 振り返りの時間の確保

毎授業後に、子供たちに振り返り作文を書かせている。書く際の視点を与えることもあれば、自由に書かせることもある。

振り返りの良さは、子供が学習したことの確認やまとめができ、事実を整理できることである。教師も子供のふり返しを見返し、観察ではわからない内面的な部分を知ることができる。子供の学びを見取ることにつながり、評価できるとともに、適切な言葉掛けができる。だからこそ、教師は記述の内容から、変容を見取る力が重要である。特に、書くスキルが発達していない低年齢の学年の子供や、発達により内省できない学年においては、子供へのヒアリングをする必要がある。教師が子供に対して、評価の観点に目を向けられるような、工夫した指示が出せるようにすることが、今後の課題である。

4 おわりに

子供が目への課題に対し、探究的な学びができるよう、教師も子供と工夫して、より良い方法を考えていきたい。また、教師が正解を用意するのではなく、子供と共に探究できるよう、今後も適切な支援や手立てを施していきたい。



各教科等を合わせた指導の指導計画 ～お助けツールの活用を通して～

君津市立上総小櫃中学校教諭 おばた あいこ 小幡 愛子



1 はじめに

知的障害教育において、各教科等を合わせた指導が必要となった場合、生徒一人一人に対して具体的に指導目標や指導内容を設定し評価を行うことや学習の積み上げを把握することが難しく課題としていた。

令和2年度から2年間に渡り、県総合教育センターの調査研究協力員となり「知的障害教育における各教科等の指導目標の設定及び学習評価を行うためのツールの開発」に関わることができた。このツール（以下お助けツール）を活用し、各教科等を合わせた指導の指導計画を整理し実践した内容である。

2 授業実践

単元名「ハチマキを製作し、納品しよう」

(1)年間計画

- ①近隣高校へ（4月～7月）
- ②駅伝メンバーへ（9月～10月）
- ③来年度新入生へ（11月～3月）
- ※年間を通じて校内販売を実施

(2)個別の目標

お助けツールの中にある各教科等のチェックシートを活用し、個に応じた指導目標を立て、どの教科で評価するかを考えた。2年A児の目標を以下とした。①在庫管理の中で数量に進んで関わり、数学的表現・処理をするとともに、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養うことができる。（数学）②作業や実習等について達成感を得て進んで

取り組むことができる。（職・家）③コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現できる。（職・家）④販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え表現できる。（社会）

(3)授業の内容

①近隣高校への納品（15時間）

毎年、君津地区特別支援学級担任の代表者と近隣の高校とが連携を取り、高校生が体育祭に使用するハチマキを製作し納品している。高校が必要とする本数（およそ1000本）を7～10校で分担している。本校もその活動に参加しているため、昨年度は赤92本、白82本を製作し納品した。

作り方や布の色など指定されたものを使うことはもちろんだが、角を90度に引っ張り出していないものや縫い方が整っていないと製品として認められず返品されてしまう。そのため、細部にこだわって作することを意識し、製品としてより良いものを作ろうという視点がもてる。自分で作ったハチマキが点検に合



まっすぐ丁寧にミシン縫い

格し納品できたことで、達成感が得られ自己肯定感が高められる活動となった。

② 駅伝メンバーへプレゼント（5時間）

校内駅伝練習は、夏休みから早朝練習が始まり10月まで厳しい練習が続く。その練習を乗り越えた生徒が学校代表として支部駅伝大会に出場する。特別支援学級の仲間も駅伝メンバーに選ばれていることもあり、激励会にはハチマキをプレゼントしたいとの提案があった。襷の色と合わせたハチマキを製作し、壮行会で渡すことができた。駅伝メンバーから感謝のメッセージをもらい、自分が学校や仲間の役に立っているという自己有用感を得ることが期待できる活動となった。



駅伝メンバーからのメッセージ

③ 新1年生へハチマキの納品（10時間）

本校の体育の授業は、ハチマキを着用している。また、1学期には体育祭があり、生徒がハチマキを使用する機会がある。そのため、次年度入学する1年生にハチマキを製作し使用できるように用意している。また、ハチマキを校内販売することで、様々な人とのやり取りを学んでいる。その際、作らなければいけない数を把握するため、在庫管理をしている。正の数・負の数の計算練習をした後、在庫表を作り、あと何本製作すれば良いか掲示物にして目標数を確認する。また、タブレットが得意な生徒は表計算ソフトを活用し在庫表を作成し入力することで納品日を意識しながら製作することができた。



正の数・負の数の計算を利用した在庫管理表

B	C	D	E	F	G	
	赤ハチマキ	白ハチマキ	赤ハチマキ	白ハチマキ	赤ハチマキ	白
日付	売れた本数	売れた本数	作った本数	作った本数	目標数	
4.15						92
4.25			26	0		56
4.26	3			8		59
4.27	2			3		61
5.1	5			24		66
5.18	1			2		67
5.19	11	5				78
6.23		4	7			71
6.23			9	3		62

タブレットで作成した在庫管理表

3 おわりに

お助けツールは年間をとおして、児童生徒がどのように学ぶことができたか、成長したのかを見定めることができるツールとなっていた。各教科等を合わせた指導では、1つの単元が2～3週間で終わる場合もあれば、1学期間必要な場合もある。今までは、目標や時数、各教科の評価に関して整理できずにいた。お助けツールの活用を通して、授業時数をあらかじめ算定し、関連する教科を学習指導要領と照らし合わせて授業時数の合計と、概ね一致するように調整した。また、年間計画を立てる際に、指導内容に適した時数を配当することができ、その目安があることで、1時間の目標が立てやすくなった。今後も活用を通して、個別の指導計画を充実させ、授業も児童生徒の実態に即したものを考えることで、さらに具体的な授業の評価や改善に結び付けていこうと思う。

※「お助けツール：千葉県総合教育センターのweb上に公開」



国語

効果的に読む力を身に付け、読書コミュニティを担う児童の育成 -多様な読書活動を通して、本や学校図書館への愛着を育む-

船橋市立海神小学校教諭（同市立市場小学校教諭） ^{むろ えみ こ}室 恵美子

これまで、読書を児童の生活に根付かせたいと思い、実践を重ねてきたが、自ら学校図書館に通う児童はごく少数で学年が上がるほど能動的に読書をする児童が少なくなると感じていた。そこで本研究では、学校図書館の改造プロジェクトや本の紹介活動などの多様な読書活動を、6年生が継続的かつ能動的に行うことによって、校内の読書コミュニティの中核を児童が担う単元を行った。この活動を通して、6年生は本をめぐるコミュニケーションから生まれる読書の魅力に気づき、一人一人が読書生活へビジョンをもつことができた。今後も、読書を基盤として読む力を育む単元を開発し、実践を重ねるとともに、先生方に学校図書館を活用し、児童の読書生活を向上させる取り組みを広めていきたい。

社会

社会的事象から児童の歴史的思考力を育む社会科学習の在り方 -道標から町の変遷を捉える学習を通して-

富津市立大貫小学校教諭（同市立吉野小学校教諭） ^{なか の こう たろう}中野 浩太郎

私は、これまで社会科の授業の中で過去から学んだことを実際の生活にどのように生かせばよいのか児童に考えさせることができなかった。そこで、過去から学んだことを現代や未来に生かす力である歴史的思考力について研究をした。検証授業では、小学校6年生の「江戸時代の生活と文化」の単元で石の道路標識である道標と房総の主要道路であった房総往還を題材にし、その価値を高めたり文化財を守る人達と関わらせたりする授業を行った。その結果、児童が住んでいる町の成り立ちを理解し地域の現在と未来のことを考え、地域の人と共に市の財産である文化財を守ろうとする姿が見られた。今後も児童の歴史的思考力を育み、より良い社会を考え主体的に問題解決ができる児童を増やしていきたい。

数学

見通しをもって証明問題に取り組む生徒の育成 -ふきだしと振り返りフローチャートの活用を通して-

香取市立佐原中学校教諭（同市立山田中学校教諭） ^{かなざわ ともひろ}金澤 知広

全国学力・学習状況調査の報告書によると証明問題を苦手とする生徒は全国的に多く、千葉県では24%が無回答であることが分かった。このことから、見通しのもたせ方が課題であると考え、数学を苦手とする生徒に向けて、吹き出しを用いて思考を共有することや証明問題の解決で用いた方法や手順についてまとめる「振り返りフローチャート」を活用して検証を行った。その結果、吹き出しを活用することで思考の流れが明確になり、どのように考えていけばよいのかと解決の見通しをもつきっかけになった。また、振り返りフローチャートにまとめることで、思考が整理されて、次の学習への見通しにつながる事が分かった。今後は、図形領域だけでなく他の領域にも利用ができると考え実践していく。

理科

生物どうしのつながりの学びを深める理科の授業づくり -学社連携とICTを活用して-

流山市立流山小学校教諭（前松戸市立新松戸南小学校教諭） ^{あだち れいこ} 安達 玲子

小学校第6学年「生物どうしの関わり」では食物連鎖の学習に水の中の小さな生き物を観察する活動が加わった。しかし、実際に水の中の生き物や「食う食われる」関係を確認することは難しく、タブレットを使った調べ学習になりがちである。本研究では目に見えない水の中の生き物やそれらが食べたり食べられたりする様子を実際に観察する授業を計画し、実践した。実際に観察させ、児童の知見を広げるために県立高等学校やふなばし三番瀬環境学習館と連携し、ICTを活用した。授業を行うことで、児童の生物に対する見方・考え方が変わり学びが深まったことが示された。今後は授業をさらに改善して研修会等でプランクトンの培養法を紹介し、どの教員も授業に活用できるようにしたい。

体育

運動の特性を生かしながら調整力と主体的に学習に取り組む態度を高める体育指導 -コーディネーショントレーニングの考え方を応用した体づくり運動を通して-

市原市立ちはら台桜小学校教諭 ^{みやさか たくや} 宮坂 琢弥

運動好きな児童の育成を目指して実践を行ってきた中で、現代の児童たちの調整力（巧みに運動する身体能力）の低下が顕著であると感じるようになった。そこで、第5学年を対象として、コーディネーショントレーニングの考え方を応用し学習内容・学習過程を工夫したり、児童の課題を明確にする教師の見取りの判断基準を作成・活用したりする手立てを講じて実践を行った。その結果、体の動きの高まりや自己の学習を調整しようとする力の向上が認められた。児童の必要感をよそにトレーニング的な取組に偏るのではなく、運動の楽しさを実感し工夫しながら主体的に学習に取り組むことにより、体力向上を図ることができたことから、本研究の成果を体育授業の改善に活用していくことが期待できる。

家庭

持続可能な社会の構築に向けて思考・判断する力を育む消費の学習 -金銭や物の価値を実感させることを通して-

成田市立加良部小学校教諭（前印西市立内野小学校教諭） ^{かわぎ まりこ} 柏木 麻理子

地球温暖化防止が叫ばれ、SDGsが広がりつつある今日、環境に配慮した生活をしていくことがより重要になってきている。そこで5年生家庭科の作品製作と消費生活の題材を通して金銭や物の価値を実感させるとともに、自分と物との関わり方を振り返らせ、環境に配慮した観点からの関わり方に気付かせる授業実践を行った。その結果、物を大切にしようとする意識をもたせることができ、物の購入場面でも本当に必要な物だけ、長く使える物や丈夫な物、環境負荷の少ない物を選ぶなど、関わる・手放す場面を考慮して思考し、判断することができるようになった。児童に環境の視点をどうもたせ、どう思考・判断させていくか、研究を通しての学びをこれから広めていきたいと思う。

道徳

振り返りの充実により道徳的価値を自己との関わりで考え深める道徳科学習 -総合単元的道徳学習におけるOPPシートの活用を通して-

香取市立佐原小学校教諭 よしだ まなみ 吉田 真奈美

道徳科学習の振り返りが教師主導で自分事になりにくいことに課題を感じ、道徳的価値を自己との関わりで考え深めることを目指し、研究に取り組んだ。小学5年生に対し、学年目標を核とした総合単元的道徳学習において、自己評価と相互評価を取り入れたOPP（One Page Portfolio）シートを活用した授業を行った。その結果、児童は自分の経験や他者の意見を基にこれからの自分についての認識を広げたり明確にしたりでき、自身の変容や成長を実感し学習への不安感が減少した。また、教師による評価にOPPシートが役立つことも明らかになった。今後は地域の研究部と連携し、学校・学年の教育目標や別業を生かした道徳科の単元化とそれに応じたOPPシートのさらなる活用に取り組んでいく。

学級経営

教員の認知次元に着目した児童理解と学級経営の在り方 -子供たちの自己肯定感の育みを目指して-

松戸市立中部小学校教諭 はいしま まきこ 配島（林田） 万輝子

教員の子供を見る視点（以下、認知次元）は一人一人違い、無意識に偏ることがある。この認知次元と自身のパーソナリティ（性格）とは関係があるのではないかと。また、認知次元を捉え直すことで、子供たちの自己肯定感の育みに生かすことができないだろうか。この二点について、経験豊富な教員にBig Five理論を用いた調査を行い、子供の肯定的・否定的な見方の傾向について分析した。それらの情報を若手教員に向けて活用し、認知次元の捉え直しを図ることで、これまで見えていなかった子供たちの新たな一面に気づき、肯定的な声掛けや支援が増え、子供たちの自己肯定感を育むことができた。今後は学年会での活用等を通し、若手教員の育成やフォローの一助となることを期待できる。

現代的教育課題

情報活用能力を育成するための単元開発 -学校の壁を越えて、地域の課題解決に取り組む協働学習を通して-

大多喜町立大多喜小学校教諭 わやま たかゆき 和山 孝行

文部科学省はSociety5.0時代の到来を見据え、情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」として位置付けた。そこで、第5学年総合的な学習の時間において、ICTを活用して同地域の小学校2校をネットワークで繋ぎ、地域の課題解決に向けた協働学習、合同学習を行い、それらのプロセスが情報活用能力の育成に有効であるかを明らかにするために検証授業を行った。結果、効果的な情報の活用方法が身に付き、情報に対する見方・考え方を多角的に捉えられるようになるなど、本実践が情報活用能力の育成に有効であることが明らかとなった。今後は、地域の実態に合わせて各教科と関連付けたり、指導計画に位置付けたりするなど、情報活用能力の計画的な育成を目指して学校教育全体で取り組んでいきたい。

発達障害

**自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍するADHD傾向のある児童の自己肯定感を高める支援の工夫
-応用行動分析シートを活用したケース会議と自立活動の指導を通して-**君津市立周西小学校教諭 ^{かとう}加藤 ^{ゆかり}由佳里

ADHD児の思春期の内在化問題や自己評価の低下が指摘されている。その為、低学年から自己肯定感を高める支援の必要性を感じている。

この研究では、ADHD傾向のある児童の自己肯定感を高めるため、応用行動分析の視点で作成したシートを活用し、環境調整を行った。また、自立活動の「時間における指導」で、児童の困難さに対する個別指導を行った。環境調整によって授業参加行動が増加し、自立活動の指導によって児童が安心できる人間関係に気付いたり、困難さやその対処方法を身に付けたりすることができ、児童の自己肯定感の高まりが示された。

今後は、具体的な例と共に自己肯定感を高める支援を広め、困難さを抱える児童や指導に悩む先生方の一助となりたいと願っている。

インクルーシブ教育

**特別支援学校高等部専門学科における不登校・
不登校傾向の生徒に対する個別最適な学びの検討**県立特別支援学校流山高等学園教諭 ^{やまざき}山崎 ^{けいたろう}慶太郎

近年不登校の児童生徒数は増加傾向にあり、特別支援学校においても学校に馴染んでいない不登校や不登校傾向の生徒への対応が課題となっている。そこで本研究では、特別支援学校高等部専門学科に在籍する不登校・不登校傾向の生徒を対象に質問紙による調査を行い、学習適応の視点から個別最適な学びに向けた課題を洗い出した。また、そうした生徒を組織的に支援するための校内体制づくりを行い、オンラインを活用した実践をしたところ、不登校だった生徒が、オンラインから授業や学校行事に参加したり、現場実習に取り組んだりすることができた。本研究の成果から、不登校の生徒が学校と繋がりをもち続けられるように、多様な学びの選択肢を保障することが重要だと考える。

企業等派遣研修

**チーム内の連携強化のため、企業の取組を学ぶ
-地域のニーズをもとに校内で情報共有するための有効な方法とは-**県立松戸特別支援学校教諭 ^{よしだ}吉田 ^{すずみ}鈴美

本校でコーディネーター業務に携わり6年目となった。校内での情報共有の方法や外部機関を活用した連携にどのような方法があるのか、企業ではどのように取り組んでいるのかを知りたいと思うようになった。株式会社高島屋柏店での情報共有は複数の共有方法があり、社内の連携を図るツールとして手引きとなる「販売員手帳」が作成されていた。教育現場でも手引きを作成し、コーディネーター業務について校内で周知することが大事だと感じた。更に、お客様目線を第一に接客する姿勢から多くのことを教わった。教育現場に繋がられる事柄が多く、相手の話をしっかり聞くことがニーズの把握や信頼関係に繋がることを再確認した。これからもニーズを捉え、チーム内の連携を高めたい。

「やってはいけない」では「やってはいけない」 時代の情報モラル教育



NPO 法人企業教育研究会 事務局 ^{いちの}市野 ^{けいすけ}敬介

1 自己紹介

みなさま、はじめましての方も、そうでない方も。私は「市野敬介」と申します。さて、私は何者か、まずは検索エンジンで「市野敬介」と検索してみてください。

2 機器を活用して双方向性を出したい

近年、小学校や中学校では1人1台の端末が利用できるようになっています。高校や特別支援学校でも、生徒が自分のスマートフォンや学校にあるタブレットを活用できるようになってきました。

誰もが気軽にSNSに文字や画像、動画を投稿できる時代になっています。その中でどんなことに気を付ければよいのか、というお題をいただいた時には、授業の冒頭や途中で上記のように検索してわかったことをグーグルなどのフォームを使って投稿してもらう活動を取り入れています。

今のところ「市野敬介」の4文字で検索すると、同姓同名の他の人の情報は出てきません。5分もしないうちに、私の仕事のことや出身地、居住地、千葉ロッテマリーンズを愛してやまないことや、連載しているエッセイのことなど、様々な情報が出てきます。

自分が知らない間に記事になっていた過去の記録が掘り起こされることもあり、みなさんの検索能力には頭が下がります。

ツイッターやフェイスブックの古い記事にまでたどり着いてベランダでエノキダケを干していたことを発見する生徒もありました。自分ではそんな投稿していたことは忘れていたのに……。

3 匿名で発信する環境を作ると

児童・生徒が発見した私に関する情報をみんなで見つめていくうちに、私の見た目に関するのりや、一歩間違えば誹謗・中傷になるような書き込みも混じってきます。もしくは事実ではない偽の情報も紛れこみます。

「ああ。匿名性が担保されているから書き放題ですね。データとして、貴重なサンプルにさせてもらいます。」というところまで、約10分。ここから様々なことが分かります。

- 情報の断片も集まるといろいろ解る
- 匿名性が高いと誹謗・中傷がおきやすい

そして、これは人の手で検索した情報の集積に過ぎず、今後は人工知能などと組み合わせ、その人が発信してきた公開・非公開を問わず、あらゆる情報を検索して、その人のことを知ることができる可能性もあります。

「青少年のうちに投稿したことが、将来の自分を傷つけることにはならないか？」という問いかけを、身を削りながら行っています。

これは青少年だけでなく大人も同じ。みんなにとっても有益な情報を発信するインターネットの使い方はどうしたらよいか、授業や講演を行いながら、私も学んでいます。

4 2022年度になって増えた依頼

児童・生徒がオンラインゲームで悪口を言うことに関する啓発依頼が増えています。ゲームは興奮や焦りで我を失いやすいことを客観的に認識してもらうようにしています。

例えば、少し急いでいるときに前方を法定速度で走る車を追い抜けないと不機嫌になって口が悪くなるドライバーがいるように。

令和4年度調査研究事業 「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究 ～1人1台端末の活用を通して～」について

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1人1台端末の日常使い

本年度に入り、研究協力いただいている横芝光町の二つの中学校と五つの小学校の研究協力員の先生方には、状況調査等、オンライン形式での打合せに複数回にわたり参加いただいた。これまでの萩号、蓮号でも触れているように、1人1台端末を授業や家庭学習の中で、より効果的に活用するためには、事前の操作理解が重要である。それは、児童生徒が端末を操作することに意識の大半を削がれてしまい、本来の目的である学習内容についての思考が深まらないことへの懸念はもちろん、授業を行う側である先生方が自信をもって授業を行うためにも言えることである。各市町村が導入している端末やクラウド環境（横芝光町ではMicrosoft365）には、どんな機能があるのか。また、児童生徒がそれを扱った時のリアクションはどのようなものなのか、どの学習場面でどのようなツールが効果的なのか等、イメージをもって授業計画を立て、実践し、その効果を検証したいところである。

そこで、各市町村、各学校で検討する必要があるのが、授業等直接的な学習場面以外のどの場面で、端末活用を取り入れていくかということである。何故、「各市町村、各学校」と記述したかと言えば、ICT機器活用が得意である、または興味のある先生方だけではな

く、苦手を感じている、又は授業への導入イメージがなかなかもてずにいる先生方についても端末活用を定着させるためには、市町村単位、又は学校単位で共通の認識をもって活用に取り組んでいく必要があるからである。

横芝光町では、各学校の活用状況に違いがあったため、活用方法等の細かい部分については協議をしながら行った。協議から出てきた課題の中で、他の市町村にも共通して予想される課題として、

- 1 各自治体で導入している校務支援システムがすでにあり、職員間の連絡ツールとしての活用を考えた時に、機能の重複があり、情報集約の場を統一できない。
- 2 保護者との連絡（出欠席や学校情報の伝達）ツールとして、それに特化した別のツールが既に定着している。
- 3 職員一人に一つのアカウント（または端末）が整備されておらず、職員間での連絡ツールとしての活用ができない。

の三点が明らかになってきている。

このような状況から、今回は「児童生徒と教員」との活用場面について検討を進めたが、理想としては、「教員と教員」の間で積極的に端末を活用し、クラウド利用について感覚を身に付けていくことが、学習の中でスムーズな端末活用を実現するための、より効果的で効果的な方法であると考えている。

◎◎ 講師派遣のお知らせ ◎◎ 県内の先生方を全力でサポートします！

- ・GIGA 端末・クラウドを活用して協働学習をできるようにしたい
- ・プログラミング教育をさらに進めたい
- ・情報モラル教育を推進したい

等

教育の情報化に関する内容についてのアドバイスや教職員対象の研修講師を承ります。
詳しくは、県総セWeb＞学校支援／授業支援＞情報・ICT教育＞学校支援をご覧ください。



夢中になって遊びこむ子どもをめざして



東庄町立こじゅりんこども園園長 関口 喜代美

1 はじめに

本園は、平成31年に5歳児の保育のこども園として開園した。園児は62名である。

園児にとっての遊びは、それ自体が目的である。時がたつのも忘れて夢中になって楽しむものであり、その中に発達に重要な体験が含まれる。保育者の環境の工夫や援助の方法により遊びを広げ深めることで、園児の様々な能力を引き出すことができる。そこで「見える化」をキーワードとして、環境の工夫や援助の方法に視点をあて取り組んだ。

2 遊びを広げ深める

園児の「おもしろそう。やってみたい。」の思いから始まった遊びには、楽しさがある。もっとやりたいと繰り返し遊ぶ中でいろいろな技能が身に付く。遊びの中で試行錯誤しながら子どもなりの思いや目当てが達成した時、充実感や達成感を味わい遊びへの高まりがみられ主体的に取り組む姿が見られる。

日々、子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を写真に撮り掲示したり、制作したものを紹介したりすることで、子どもたちは自分の遊びを視覚的に捉えることができたのであろう。興味関心は、一層高まり、遊びの連続性や継続性も見られるようになった。

3 援助の方法を探る

園児が「やりたい」と始めた楽しさを保育者が共有し、見守りながら支えていくことで遊びが豊かになる。遊びの中で、保育者は常に「学び」や「成長」を見極めながら援助することが大切である。そこで「遊びの記録シート」を作成し、職員間で事例をもとに研修をしている。

研修の中で、保育者が遊びの中での環境の工夫と言葉掛けについて、作成したシートをもとに話し合う事で、その場の遊びを見ていない教員間での情報の共有を可能にし、保育者の指導力の向上につながっている。

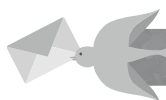


4 見える化により

「環境の工夫」と「援助の方法」に視点をあて、見える化をしたことにより、園児の遊びも多様化し、個から集団へと遊びや友達関係も広がり、楽しく遊ぶ姿も見られた。個から集団になることで、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって多くの発想が生まれ豊かな感性や多様な表現活動につながっている。

5 おわりに

日常あふれている遊びを継続して記録し掲示することで、園児の変容や成長をみとることができた。また、研修を通して環境の工夫や援助の方法も共有しながら、指導力の向上にもつながっている。保育者の意識が変わることで、園児の興味関心や意欲を高め、豊かな遊びにつながる。幼児期に経験する遊びは、小学校の学びの基礎である。今後も夢中になって遊びこむ園児を支える園でありたい。



登下校の交通マナー向上のために

柏市立田中小学校教諭 こたき ゆうこ 小瀧 悠子



今年度、私は生徒指導主任を務めている。本校では「子供が急に飛び出してきた」「保護者もいるのに一緒になって道路に広がって歩いている」など登下校の交通マナーの問題が多い。その度に注意喚起のメールを流し、指導をするものの一向に良くならない。

この度の「千葉教育」蓮号の子供の横断判断能力は興味深いものであった。30km以下の低速車両に対する「まだ渡れる。」という誤判断率が60%以上の割合が、データをとった2年生・5年生において3・4割存在するという事実である。

柏市では関係機関と連携し、毎年通学路の点検や対策を行っている。その取組や地域、保護者の方々の見守りにより安全は改善されている。そこで大切なのは子供達自身の意識改革である。これまでも私たち教員は横断の誤判断が多いことを念頭に「自分の命は自分でしか守れないこと」や「交通事故は他人事でない」という視点をもって指導してきた。その他にも毎年柏市で実施している警察官による全校交通安全教室、2年生の生活科や3年生の社会科の地域にかかわる活動、4年生の地域の安全を守る活動等も行ってきた。今後はさらに横断の誤判断を防ぐために、実際の危険箇所と同じ状況を作って練習する等、交通行動の具体的な指導が必要であろう。子供達を見守ってくださる地域の方々へ恩返しをするためにも根気強く活きた指導を続けていく。



分からないことだらけの毎日から

習志野市立東習志野小学校教諭 なかだい ちひろ 中台 千尋



教師19年目にして、初めて「ことばの教室」通級担当となった。恥ずかしながら「ことばの教室」で、どんな指導をしているのか、全くの無知であった。

そうは言っても、児童は通ってくる。タ行がカ行に置換し、自分の名前が言えなくて悩んでいる児童。子音が抜けてしまい、何を話しているのか相手に聞き取ってもらえない児童。吃音のため、自己紹介することが苦手な児童。通常学級での指導は役に立たなかった。

そんな中、言語通級新任担当者研修が始まった。様々な指導の手立てが紹介され、「これはAさんに合いそう。」「これはBさんにやってみよう。」という具体的な技術をたくさん知ることができた。構音障害の児童はそれぞれ困っている音によって指導が違い、吃音の児童は全く別の指導だった。日々の実践の中で、ことばの教室の奥深さと難しさを知っていった。分からないことだらけだったので、新任担当者研修は、毎回楽しみだった。新しい情報を得て、それを指導に生かし、児童が変化していくということは、幸せなことだ。

吃音指導の講座の中で「努力してもどうしようもないことは、誰にでもある。」という話があった。吃音は回復を目指さない。吃音と共に生きる力を育てていく指導だ。それは、吃音に限らずどの児童にも必要な力である。分かっているようで、分かっていたいなかったことだった。これからも学び続け、児童に寄り添いながら指導をしていきたい。

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」 結果の活用について

県総合教育センター学力調査部

1 全国学力・学習状況調査について

「令和4年度全国学力・学習状況調査」が、4月19日（火）に対象学年の児童生徒に対して実施された。今年度は、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等についての質問紙調査であった。

<教科に関する調査結果>

<小学校>	千葉県	全国
国語	66 (66)	65.6
算数	63 (62)	63.2
理科	63 (62)	63.3
<中学校>	千葉県	全国
国語	68 (68)	69.0
数学	50 (50)	51.4
理科	48 (48)	49.3

※数値は公立学校の平均正答率（％）。
ただし、文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は
小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入。
※（ ）内は、千葉市を除いた割合を示す。

2 学校全体で分析し、指導改善を推進

県の分析ツールで作成できる4つのシートから自校の成果・課題を発見し、指導の充実・改善のヒントを得ることができる。

(1)教科・質問紙分析シート

全国、千葉県、自校の教科の結果がレーダーチャートで表示され、自校の状況について一目で捉えることができる。

(2)経年分析シート

全国と比較した自校の結果について、最大3年間の経年による分析ができる。

(3)誤答分析シート

各教科の設問ごとに正答率、誤答率などを解答類型別にみることができる。誤答分析を詳しく行うことで、指導の重点項目を明確にすることができる。

(4)クロス集計シート

生活習慣や学習習慣と学力の関係について、相關関係のみられた設問から、自校の状況を捉えることができる。

3 指導改善サイクルの確立を目指して

(1)県の分析ツールで作成した各種シート

管理職が、学校運営に役立てるため、自校の強みや課題を明確にし、手立てを考えることで、実態に応じた取組につなげることができる。また、研究主任を中心に全ての先生方が、授業改善のための資料として活用することができる。

(2)文部科学省発行の報告書

今後の指導方法を考える際のヒントとなる。分析を進め、PDCAサイクルに沿って、各学校の実態に即した指導改善サイクルの確立に役立てることができる。

(3)文部科学省からの調査結果データ

文部科学省からのデータの中に、学校別回答状況整理表（S-P表）がある。学級集団の状況を把握し、強みを生かし、学力を伸ばすことや、個々の児童生徒に応じた、きめ細かな指導の実現を目指すことができる。

4 おわりに

全国学力・学習状況調査の結果を分析、活用して、各学校の状況に合わせた指導改善サイクルを確立し、学校全体で、授業改善を進めることが大切である。学校運営や児童生徒の学力向上につなげていただきたい。

令和4年度 千葉県総合教育センター・千葉県子どもと親のサポートセンター

研究発表会

千葉の子どもたちの未来のために
～新しい時代に求められる資質・能力の育成をめざして～

オンデマンド
動画配信

令和5年 2月15日(水)～3月2日(木)

全体講演会

演題 社会の変化とこれからの学校教育 ～自律と対話～

講師 横浜創英中学・高等学校 校長 工藤 勇一 氏

【略歴】 ○東京理科大学理学部応用数学科卒業、公立学校教員、東京都教育委員会、新宿区教育委員会教育指導課長
○千代田区立麹町中学校 校長（2014年4月～2020年3月）
○内閣官房 教育再生実行会議委員（2018年8月～2021年8月）
○内閣府 規制改革推進会議専門委員（2021年8月～）
○経済産業省 産業構造審議会臨時委員（2021年6月～）

【主な著書】 学校の「当たり前」をやめた。一生徒も教師も変わる！（時事通信社） 等

研究発表	担当
「好ましい人間関係を育む学級づくり」に関する研究 ～「学級づくりガイドブック」再編集を通して～	カリキュラム開発部 研究開発担当
これからの時代を生きる力を育てる授業づくりに関する研究 ～「授業づくりガイドブック」の再編集を通して～	カリキュラム開発部
教員の資質能力の向上を図る能動的自立研修の活性化に関する研究 ～ちばの先生スキルアップツール幼稚園等教諭版の改訂を通して～	カリキュラム開発部 研究開発担当
小・中学校理科における科学的に探究する学習の進め方に関する研究	カリキュラム開発部 科学技術教育担当
ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究 ～1人1台端末の活用を通して～	カリキュラム開発部 メディア教育担当
全国学力・学習状況調査について ～ちばっ子の学力向上に向けて～	学力調査部
知的障害教育における学習評価から授業改善につなげるフレームワークに関する研究	特別支援教育部
教育相談コーディネーターを生かした機能的な教育相談体制の構築に向けて	子どもと親の サポートセンター

◆申込方法◆

- ・千葉県総合教育センターWEBサイトより御申し込みください。必要事項を入力すると、特設サイトの「ID」と「パスワード」が返信されます。
- ・特設サイトの開設期間は 令和5年2月1日～3月2日です。※資料は申込者各自がダウンロードできます。

◆申込期間◆令和4年12月20日(火)～

◆問合せ先◆

千葉県総合教育センターカリキュラム開発部
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13
TEL 043-276-1274(直通)
E-mail sosekaihatu2@chiba-c.ed.jp
※「ID」と「パスワード」の返信がない場合は御連絡ください。



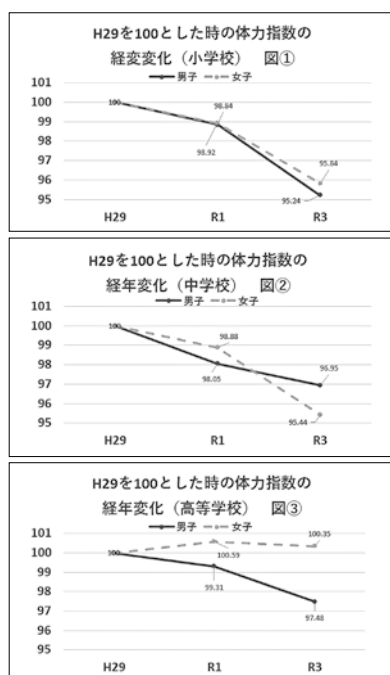
体力低下・緊急事態宣言

県教育庁教育振興部保健体育課

1 はじめに

コロナ感染拡大防止に伴う教育活動の制限は、令和元年度末の全国一斉の休校から始まり、児童生徒のそれまでの学校生活を大きく変えた。それ以降、徐々に教育活動の再開が進んだが、それに伴う影響は計り知れず、目に見えるもの、見えないもの様々な影響が指摘された。このような状況の中、令和3年度の小・中・高等学校の体力調査の結果は、衝撃的なものであった。コロナ禍ということで、ある程度の体力低下は予想していたが、校種によつての傾向の違いはあるものの、これほど体力低下が進んでいるとは……。

2 県内の小・中・高等学校の体力の状況



図①～③は、コロナ禍直近5年間(H29～R3)の体力の様子を示したものである。平成29年度の記録を「100」として、令和元年度、令和3年度の記録を指数で表したものである。

(100>⇨H29より低い、100=H29と同じ、100<⇨H29より高い)

高等学校女子を除いて、他のすべての校種男女別の傾向は、コロナ直前の平成元年度に若干の下降気味となり、コロナ禍の令和3年度は大幅な体力の下落傾向がみられる。特に小学校男女、中学校女子の落ち込みは激しい。

続いては、コロナ前後の児童生徒の運動時間について、データをもとに考察してみる。

授業以外の1週間の総運動時間(部活動を含む)(表①)

区分	全国				千葉県			
	小5		中2		小5		中2	
年度	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
令和元年度(分)	558.1	349.6	834.7	609.9	535.2	332.8	903.1	666.4
令和3年度(分)	520.1	332.3	724.0	516.4	515.6	330.3	785.0	553.4
差(%)	-6.8	-4.9	-13.3	-15.3	-3.7	-0.8	-13.1	-17.0

R元年度及びR3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査より

表①は、1週間の総運動時間(運動部活動を含む)をコロナ前(R元)とコロナ後(R3)で比較したものである。千葉県の小学校5年生では、男子が3.7%の減少、女子が0.8%の減少、中学校2年生では、男子が13.1%の減少、女子が17.0%の減少であった。これは全国とほぼ同様の傾向となっている。中学校の減少幅が大きいのは、運動部活動の活動停止が大きく影響しているものと考えられる。

この結果を見ると、やはりコロナによる活動制限は、児童生徒の運動時間の減少につながっており、体力低下の原因と考えられるのではないだろうか。

種目別には、20mシャトルラン(持久力)、上体起こし(筋持久力)、ソフト(ハンド)ボール投げ(投力)の落ち込みが大きかった。

3 体力向上の取組

上記の実態を見ると、ここまで下がってしまった体力を向上させていくには、授業及び授業外の意図的な取組が必要である。

(1)授業での取組

コロナ禍や社会状況の変化により、学校内外での運動機会が消失する中、確実に担保されているのは、体育の授業の時間である。この週2～3回の授業を体力向上の視点で取り組むことは、体力低下に歯止めをかけることが期待される。

体づくり運動を帯で指導計画に入れる例 (図④)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オリエンテーション		体づくり運動 (体力を高める運動)								まとめ
		主運動 (器械運動、ボール運動、表現運動等)								
		(内容によっては授業の後半に実施)								

図④は、単元の指導計画の中に、体づくり運動を帯で取り込んだ、直接体力向上をねらう授業である。(小・中学校)例えば、小学校では45分の授業の中で、最初の10～15分程度の時間を使い、主運動の準備運動を兼ねた「体づくり運動」を実施する。直接体力向上をねらった授業を継続的に取り組むことでより効果的となる。その際、体づくり運動の評価については計画的に実施する必要がある。また、体づくり運動を帯でとらなくても、準備運動の1つの種目として、意図的な種目を実施することで、主運動に向けて心拍数を上げることと体力の向上をねらうことができる。各授業者の工夫した取組が期待される。

新学習指導要領のもと、「主体的・対話的な深い学び」の視点での授業改善が進む中ではあるが、身体活動を目的とした体育の授業では、運動量の確保は大前提である。運動量

の確保は単に時間的な確保だけではなく、運動強度を強めて、短時間実施することも考えることができる。それぞれの授業の中で意図的に工夫して設定してもらいたい。

(2)授業外での取組

授業での取組も重要であるが、運動時間の確保という点では限界がある。日常生活で運動時間が減少する中、やはり学校生活の中で運動時間を計画的に確保する必要がある。

おはようタイム (業前運動) 活動計画 (図⑤)

時間	活 動	留 意 点
8:05	1 グラウンドに集合	・集合後、健康観察をする。
8:06	2 準備運動	・足のストレッチを中心に行う。
8:10	3 マラソン (持久走)	・学年コースを3周。 ・自分のペースで走る。
8:15	4 整理運動	・手洗い、うがいを行う。 ・体調の確認をする。
8:20	朝の会	
8:30	1校時	

図⑤は、以前は盛んに行われていた「業間活動」「業前活動」の一例である。現在はコロナ禍となり実施していない学校が多いのではないだろうか。コロナの感染状況を睨みながらにはなるが、学校独自の体力づくりに向けて工夫した取組を復活させることは、この体力低下緊急事態宣言下では必要不可欠なことであると思われる。

4 おわりに

授業や業間活動での直接的な児童生徒の体力向上という意味では、効果は微々たるものかもしれない。しかし、魅力的な授業や工夫された体育的活動により触発された子供たちが、休み時間や放課後に夢中になって運動に取り組む姿がみられるようになると、体力は上昇傾向にシフトアップしていくのではないだろうか。そのための教師の工夫と努力を期待したい。

ことばの教室（言語通級指導教室）の概要

大網白里市立増穂北小学校教諭 まつもと きょうこ 松本 京子



1 ことばの教室とは

千葉県の言語障害教育は、昭和26年に市川市・真間小学校に通級方式による国語科治療教室をスタートとする。その後、昭和34年に千葉市・院内小学校に特殊学級としての言語治療教室が開設されると、県内や全国から入級希望者が殺到した。そのために、昭和40年代には言語学級が県内はもとより全国へと拡大していった。

現在言語障害教育へのニーズが高まり、ことばの教室（言語障害特別支援学級、言語障害通級指導教室）は、県内に200校ほど設置され、ことばの教室設置市町村の割合は99%である。更に、昭和54年の養護学校義務制に伴い途絶えていた「訪問指導」が、平成19年度から「巡回による指導」として再び実現され、現在は41教室が63校へ巡回指導を行っている。巡回指導の実施により、保護者の送迎が困難な地区の児童にも言語障害教育が行き渡るようになった。

平成5年には通級の制度化と共に、通級指導教室が設置され、言語障害教育の環境整備（在籍の移動がなく指導を受けられる）に伴い、通級児童が飛躍的に増えた。言語通級指導教室とは、言語障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導を行う教室で、年間35単位時間から280単位時間の自立活動の授業が行われている。単なる各教科の遅れを補充するための指導とはならないようにしなければならない、と定められている。

2 学級・通級指導教室数と対象児童・生徒数

下の表は、平成24年度からの難聴・言語障害特殊学級と通級指導教室の設置校数及び担当者数の推移である。難言学級はおよそ半分に減り、学級から通級指導教室への移行が進んでいる。対象児童の総数は1.4倍に増加しているが教育相談の児童は2分の1に減少している。

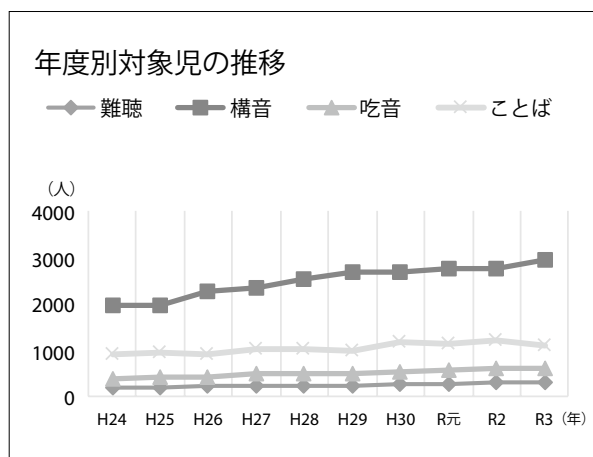
（教育相談の児童とは、正式な通級の手続き待ちの児童や通常の学級の中で特別な配慮が必要な児童のことである。）

設置校数（校）と担当者数及び児童・生徒数（人）

年度	難言学級	通級教室	担当者数	対象児童総数	教育相談者
24年度	77	109	280	3,612	423
25年度	79	116	299	3,712	408
26年度	74	126	306	4,075	310
27年度	66	137	316	4,257	304
28年度	65	146	322	4,511	345
29年度	65	150	327	4,691	304
30年度	61	155	336	4,866	272
元年度	47	185	340	4,922	213
2年度	47	184	350	5,066	270
3年度	40	198	347	5,203	200

※表・グラフは言語部会調査部のデータより

次のグラフは年度別対象児の推移である。発音の誤り（構音障害）が全体の50%近くであり一番多く、毎年度増加している。ことばの遅れの児童を合わせると、約80%を超えている。全国的にも同じ傾向である。



※ことばとは、ことばの遅れのこと。

ことばに困難があると、話すことに自信がなくなり、話さなくなってしまうことが心配される。周囲の児童がことばの不自然さに気付く前に、また、誤った発音の癖が定着する前に、早期発見・早期指導が大切になってくる。

3 指導内容

発音の誤り（構音障害）を主訴とする児童が多いので、構音の指導内容の一例を紹介する。

(1)イヤートレーニング（耳の訓練）

正しい音を耳で聞き分ける能力を身に付けさせるために、聞き取り遊び・目的音の聞き出し・異同弁別・正誤弁別等、スモールステップで耳を鍛える練習を行っている。

(2)口の体操（構音器官の機能訓練）

構音器官（舌・顎・口唇・口蓋等）の機能訓練を行い、正しい発音ができるようにするための素地を作る。口を大きく開ける・唇を突き出す・舌を口角の上下左右につける・舌を脱力して前に出す等、舌を動かす練習を楽しく行っている。併せて、おいしい練習（ヨーグルトのふたの裏をなめる・ポッキーを手を使わずに唇を動かして食べる等）を家庭では取り組んでもらっている。

(3)発音練習（構音指導）

口の体操により、自分の意思で舌をコントロールできるようになったら、舌の形や位置を教えて正しい音を導き産出できるようにする。単音・無意味音節・単語・短文・長文・会話、と正しい発音が定着できるようにスモールステップで進めていく。

(4)粗大運動・微細運動

体全体を動かす粗大運動・手先を動かす微細運動など、児童の発達順序の基盤となる全体的な発達を促すことで、ことばをより豊かに育てていく。

4 連携

(1)学校内の連携

通常の学級の担任や児童に、ことばの教室とは何かを話し、「いってらっしゃい！」と温かく送り出してもらえる環境調整を行う。また、管理職にも理解してもらえるよう、校内研修や日々の報告・連絡・相談を行いながら、学校全体で協力体制を築いていく。

(2)保護者との連携

連絡ファイルや授業参観・面談等を通して、通級の目的や進捗状況を共通理解できるようにしている。

(3)関係機関との連携

幼稚園・保育園・保健師・病院・歯科医院等と情報交換を行うことで、共通理解を図っている。

近年は、発達障害の疑い等様々な課題をもつ児童・生徒が増えていることもあり、これまでの研修に加え、発達障害関係やアセスメント、教室運営、保護者との連携などの研修が必要になっている。全ては子供たちの幸せのために、学校や地域全体を巻き込んで、安心して通級できる教室環境を整えていきたい。

系統的かつ教科横断的な環境学習の実践 SDGs No.14「海の豊かさを守ろう」の課題を通して



芝山町立芝山中学校教諭 **もり たかゆき**
森 孝行

1 はじめに

「CO₂の増加」「海面上昇」「プラスチックごみ」等、環境問題に関する情報は耳目を集めている。学習指導要領でも「持続可能」が強調され、教科書にESD教育やSDGsの話題が散見される。芝山町は、空港関連企業が多いが、初夏には蛍が飛び交うほど自然に恵まれている。このように開発と自然が両立している町の生徒に対し、どのような環境学習が求められているのか、その一端を描出することを目的とする。

2 本校の生徒の実態

(1)アンケートの実施と結果

2年生を対象に、環境問題について問うたところプラスチックごみの関心が高かった。そこで、プラスチックごみが自然に与える影響を問うたところ、海や川の生物に与える影響についての知識は浅薄であった。

(2)環境問題を主とした授業の方向性

海に関連する環境問題は喫緊の課題であり、芝山町に海がないからといって等閑視することはできない。そこで、SDGs No.14「海洋ごみなど海の汚染を大きく減らす」を目標として設定し、主体的に解決するため、本校の教育目標である「協働」「個性」を主眼に置いた授業実践を行った。

3 授業実施の目的と方法

(1)授業の目的

- ①ESD教育やSDGsを指導計画に位置付け、環境に関する資質・能力を育成する。

- ②育った地域・環境によらず環境問題に対して能動的に取り組む生徒を育成する。

(2)授業の方法

以下の計画で実践することとした。(表1)

表1 プラスチックごみに関する授業計画

4月	プラスチックごみに関わる授業を年間指導計画に位置づける。
5月	海岸の砂を採取し、生徒がプラスチックごみの状況を調査する。
6月	プラスチックごみの除去方法を生徒自身が考え開発する。
7月	外部講師によるプラスチックごみに関するリモート授業を行う。
9月	自ら考えた方法や道具を使ってプラスチックごみを除去する。
10月	プラスチックごみに関する授業を教科横断的に実践する。

4 実践内容について

(1)教科を横断した授業計画

中学校学習指導要領総則編では、育成すべき資質・能力を教科横断的に育成することを謳っている。しかし、管見の限りプラスチックごみや環境問題を年間指導計画に位置付け、系統적かつ教科横断的な実践をしている事例は見られない。そこで、プラスチックごみについて各教科で学習できる単元を選定した。(表2)

表2 教科を横断した学習内容例(2学年)

英語科	「Pro2 Leave Only Footprints」5月 自然を守り共生する生き方を考える。
国語科	「メディアを比べよう」6月 クリティカルシンキングを意識し情報リテラシーを身につける。
理科	「血液とその循環」10月 マイクロプラスチックを体内に取り入れていることを理解する。
社会科	「地域の在り方」2月 SDGsの視点から地域の環境問題を解決する課題を探す。

(2)海岸の砂の採取と校外授業場所の選定

千葉県海岸数ヵ所で砂を採取し、海岸のプラスチックごみの有無を確認(図1)すると、千葉ポートパークの砂浜に多くあることが判明したため、校外授業場所として選定した。



図1 (左) 活動の様子 (右) プラスチックごみ

(3)外部講師によるリモート授業

プラスチックごみについて見識を深めるため、筑波大学人間系 山本容子准教授によるリモート授業を実施した。(図2) 山本准教授の話から、プラスチックごみが海や川の環境に与える影響、数多あるプラスチックごみの回収の難しさ、マイクロプラスチックが人間の体内に取り込まれていること等について見識を深めることができた。



図2 (左) リモート授業の様子 (右) 印刷資料例

(4)プラスチックごみの回収方法の開発

プラスチックごみを回収する際、大きなものは回収が容易だが、直径5mm以下のマイクロプラスチックの回収は困難を極めた。生徒は、ピンセットで回収、金網やザルを使って回収、網戸を使って回収、密度の違いから海水に浮いたものを回収するなど、個性的な工夫が見られた。

(5)校外授業の内容

校外授業では、各々が考えた方法を用いてプラスチックごみの回収を行った。実際に海岸の砂を観察すると、多くのプラスチックごみがあることに驚いた様子だった。プラスチックごみは回収できても、砂の中には貝殻や木の枝、海藻なども含まれているため回収に時間がかかる生徒も多かった。更に、砂自体が湿っているため網目が詰まるなど、想定外の事態も多く見られた。(図3)



図3 海岸での様子

5 まとめ

校外授業後のアンケートを環境学習前のアンケートと比較すると多くの生徒がプラスチックごみ問題について関心や危機感が高まった。更に、実生活の中でプラスチックごみを減少させるための具体的な方法を考えるなど、主体的な取組がみられた。前述のとおり芝山町には海がないが、海のない県や市町村でもこのような活動を通して海のプラスチックごみ問題への意識を高められる。また、実際に海岸に出向くことで教室の中では想定できない回収の困難さを感じていた。そのような状況でも仲間と協働し試行錯誤しながら問題を解決しようとする姿も見られたことから校外授業による学習の重要性も実感できた。今後は、様々な教科で教科の特性に沿った環境問題を取扱い、学びを深めていきたい。

6 おわりに

対象生徒、地域等が限定された事例だが、このような短期間のプログラムでも環境意識・態度の変容が大きくあった。しかし、全教科の年間指導計画を環境学習の視点から見直したり、校外授業を実施したりすることは人的、時間的制限のため困難である。今後は、生徒の資質・能力の育成に向けて、カリキュラムマネジメントの視点からの環境づくりや時間の確保は焦眉の課題である。

付記：本研究の一部は、令和4年度日本財団海洋教育研究所（海洋教育パイオニアスクールプログラム）からの助成金によって行われた。

小中一貫教育のこれまで、そして、これから

千葉大学名誉教授 ^{あまがさ}天笠 ^{しげる}茂

1 千葉県における義務教育学校

－2022（令和4）年4月現在－

2016（平成28）年度から、義務教育学校、中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校が制度化された。これにともない、2022（令和4）年4月現在、千葉県における義務教育学校は、次のとおりである。

- ・市川市立塩浜学園（2016（平成28）年4月開校）
- ・成田市立下総みどり学園（2017（平成29）年4月開校）
- ・成田市立大栄みらい学園（2021（令和3）年4月開校）
- ・八千代市立阿蘇米本学園（2022（令和4）年4月開校）

ちなみに、文部科学省の令和4年度学校基本調査（速報値）によれば、義務教育学校の数が全国178校、在籍者数は6万8千人、教員数は6千3百人で、昨年度より27校増加とのことである。これに併設型小中一貫校や連携型小中一貫校を加えると、小中一貫教育を施す学校が着実に増えつつある。

しかし、どのような形や中身をもって小中一貫教育というのか。その内実が問われる段階に至っている。

小中一貫とか、小中連携を掲げながらも、旧来からの小学校と中学校がそこにあって、実質はかつてと余り変わらない小中一貫も存在している。小中一貫教育は創設の段階を越えて、次の段階に差しかかりつつあるとみられる。形や制度の整備にともなう実質が問われる段階へ推移しつつある。

2 小中一貫教育の出発点は？

ところで、千葉県における小中一貫教育の出発点は、どのあたりにあるのだろうか。それぞれの市町村において小学校と中学校との連携を図る動きは、すでに昭和の時代から様々になされてきたとみられる。

その上で、県をあげての動きとして、2000（平成12）年から3カ年、文部科学省の研究開発学校を引き受けた和田町を中心になされた研究開発をあげておきたい。県教育委員会のバックアップのもと、県立安房農業高等学校・和田町立和田中学校・和田小学校・北三原小学校・南三原小学校による12年間を通して教育課程の研究開発がすすめられた。

もっとも、小・中・高校の間をつなぐ働きかけは、それ以前、1996（平成8）年4月より「ちば新時代5か年計画」の一環として推進された「夢を育む教育の推進事業」に見ることができる。「夢を育む教育推進地域」では、小・中・高校、家庭及び地域社会が相互に連携する実践研究がなされている。

そこでは、中学校区をエリアにして小学校と中学校などとの連携が説かれた。ちなみに、千葉県教育委員会『平成9年度 夢をはぐくむ教育実践資料集』（平成10年3月）には次の中学校区における実践が集録されている。

・浦安市立浦安中学校区 ・東金市立東金中学校区 ・大多喜町立西中学校区 ・館山市立第二中学校区 ・富山町立富山中学校区
・船橋市立葛飾中学校区 ・松戸市立六実中学校区 ・八街市立八街南中学校区 ・銚子市立第八中学校区 ・茂原市立南中学校区
・木更津市立太田中学校区

これら中学校区においては、小・中・高等学校の連携に関する実践として、合同文化祭、部活動交流、体験入学等の実施や相互の授業参観、情報交換会、合同研修会などを実施し、学校の枠を越えた取組が推奨された。

このうち、浦安市立浦安中学校、浦安小学校、北部小学校、東小学校からなる浦安市立浦安中学校区においては、小中学校教育の連携事業の一つとして、小学校、中学校の教員による授業や行事の相互参観などが実施されている。また、小・中の地域交流として、新入生一日体験入学や吹奏楽合同演奏会などが行われている。

いずれにしても、これらは小学校と中学校との連携を促す先駆的なプロジェクトであり、その後の小中一貫教育が生まれる地ならし的な事業としてとらえることができる。

3 人口減少地域における小規模化への対応

一方、千葉県における小中一貫教育を推し進める大きな要因となったのが児童生徒数の減少であり、これにともなう小規模校対応にあった。その代表例として、鴨川市立長狭学園がある。同校は、3小・1中の統合を経て、2009（平成21）年4月、小中一貫校「長狭学園」として開校した。小学校第4学年までを収容する校舎を新設し、改修となった旧長狭中学校の校舎に第5学年から第9学年の児童生徒を収容する取組に多くの関係者が注目した。

その後、県内各地域において小学校と中学校の連携や一貫をめざす動きが広がり見せるなかで、また、国における制度面の整備が進められるなかで、2017（平成29）年1月29日、小中一貫教育の推進をめざして県教育委員会の主催によるパネルディスカッションが、県総合教育センターを会場に開催された。

それは、2016（平成28）年から2カ年、千葉県の小中一貫教育の推進を図る事業の一環として開かれたもので、県内の義務教育学校及び小中一貫教育実施校における実践事例、

進捗状況、課題などの、共有をめざすとして設けられたものであった。

4 先に歩む学校はメンテナンスを

このような経過のなかで千葉県における小中一貫教育は進展してきたわけである。しかし、その5年、10年と時間が経過するなかで、先に歩んだ小中一貫教育校には一定の期間の経過にともなう組織的な疲労の蓄積やマンネリ化の進行も心配される。

開校の理念や精神が忘れ去られてしてしまったところはないか。あるいは、教育課程に贅肉がついたところはないか。小中一貫教育校として開校した学校も10年もたてば、当初の精神を再確認したり、必要ならば新たに構築したり、といったメンテナンスも必要である。とりわけ、看板は小中一貫校とか、〇〇学園などと掲げながらも、従来からの小学校と中学校が同居するにとどまったり、あるいは、回帰したりしている学校の修繕が求められる。

確かに、「小中一貫校」、「施設一体型小中学校」、「小中学校併設校」、「小中一貫教育校」、「小中一貫型（教育）学校」と称する小中一貫教育校が、千葉県の小中一貫教育をここまで進めてきた。しかし、どのような小中一貫教育校なのか、制度面においても、また、内容面においても、わかりにくくなっている現状もある。これをどのようにメンテナンスしていくかに小中一貫教育のこれからがかかっている。

その意味も込めて、9年カリキュラムや組織運営などリニューアルを遂げる小中一貫教育校に次の段階への牽引を期待したい。

【参考文献】

- ・千葉県教育委員会『平成9年度 夢をはぐくむ教育実践資料集（第2集）』指導資料131集 1998年3月
- ・天笠 茂「町内5校の連携による12年間を見通した教育課程の研究開発－農業科・町民科の試み－」『千葉教育』令和3年菊 670号 2021年10月

ライフサポートファイルを活用した地域の関係機関との連携の在り方 ～乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫した教育的支援を行うために～

県立長生特別支援学校

1 長生特別支援学校について

本校は、昭和48年に県立桜が丘養護学校茂原分校として誕生し、昭和53年に一宮町に移転。肢体不自由と知的障害を教育部門として、いる。すぐ側には太平洋が広がっており、自然豊かな環境の中で一人一人に応じたきめ細かい指導・支援を行っている。

2 ライフサポートファイル

本校の知的障害教育部門すべての学区を包含する長生郡市総合支援協議会が中心となって作成したことで、本校に在籍している全ての児童生徒が同じファイルを使用できる環境にある。この利点を生かし、学校が各市町村から全児童生徒分のライフサポートファイルを集め児童生徒に一斉配布し活用を進めている。

3 研究課題

特別支援学校のセンター的機能として、生涯にわたり一貫した支援の後押しをするために、ライフサポートファイルを活用した地域の関係機関との連携の在り方や個別的教育支援計画の有効な活用方法を検討する。

4 取組の成果と課題

(1)情報の発信

①保護者に向けて

便りや相談会、研修会等で活用の仕方などのアドバイスをした。受診記録を挟んだり、年齢のページを記入したりする保護者が増えてきた。

②関係機関に向けて

放課後等デイサービス合同連絡協議会、医

療的ケア児者に関する協議会などでファイルの有効性や周知について意見交換を行った。各事業所が作成した支援計画を入れるなど、関係機関でも活用が進んできた。

③東上総地区の教員に向けて

長生郡市の小中学校にファイルの見本を配布し、活用に関する研修会を行った。関係機関との連携の在り方を学び、教師もファイルを活用しながら、子供の育ちを支えていこうという機運が高まってきた。

(2)事例を挙げての検証

対象者のこれまでの支援記録をファイルに積み上げていった。共有したい内容を関係機関に正確に伝えることができ、一貫した支援につながった。子供が安定した生活を送るための有効な手立てであることが分かった。

(3)個別的教育支援計画の見直しと活用

学校と保護者の確認ツールとしていた個別的教育支援計画を「支援の見える化」「校内外での活用」「個別の指導計画とのつながり」の3観点で見直し、ライフサポートファイルの学齢期の記録とリンクするようにした。関係機関の支援内容や役割が明確になり、合理的配慮の提供や必要な支援が切れ目なく引き継がれ、関係機関との情報共有を行いながら支援をすることができるようになった。

(4)課題

長生圏域でのライフサポートファイルの定着はこれからである。活用を推進していくのは各市町村であるが、特別支援学校のセンター的機能として、その後押しのため校内外に必要な働きかけを継続していくことが必要である。

千葉歴史の散歩道

身近な遺跡を歩いて、動画で触れて

— 東金市^{どうにわ}道庭遺跡 —

千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 ^{なめき} 行木 ^{あやこ} 絢子



皆さんは、お住いの地域にどんな遺跡があるかご存じだろうか。私が地元の遺跡で特に身近に感じているのは、昨年度発掘調査を実施したばかりの「東金市^{どうにわ}道庭遺跡」である。

道庭遺跡は東金市家之子^{いえのこ}に所在し、大部分が県唯一の農業者研修教育施設である県立農業大学の敷地になっている。発掘調査は昨年度を含め4回行われ、縄文時代から奈良・平安時代の遺構^{いこう}を確認した。標高は約50mあり、農業大学を訪れた際は道中、急な坂道が続いたため息を切らしながら上り、当時の人々も行き来に苦労したのではないかと身をもって体感している。

昨年度の調査では弥生時代の遺構が多く、中でも目を引くのが方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}である。方形周溝墓とは、溝で方形に区画し、内側に土を盛ったお墓で、溝の四隅を掘り残している。数基から数十基まとまって造られることが多く、道庭遺跡では過去の調査結果と合わせ、84基の方形周溝墓を検出した。

昨年度の調査で見つかった方形周溝墓は11基で、そのうち全体の規模がわかるものは一辺10m前後が多く、過去の調査では最小で7m、最大で20mであったという。遺物^{いぶつ}は11基中8基の周溝内から甕^{かめ}の小破片や壺^{つぼ}が出土しており、弥生時代中期後半の土器と思われる。ほかには、勾玉^{まがたま}2点も周溝から見つかった。

このような発掘調査の成果や様子は、一般の方が見学できる遺跡見学会で紹介される場合が多いが、新型コロナウイルスの感染拡大

により公開する機会が減っている。

そこで文化財課では令和2年度にYouTubeチャンネル「ちばの文化財紹介チャンネル」を開設し、県内の指定文化財の紹介や普及活動「土器ッと古代“宅配便”」の解説動画、県が実施する遺跡の発掘調査の様子を「おうちで遺跡見学会」として動画を公開している。

ご紹介した道庭遺跡の調査の様子は前編・後編に分けて載せており、方形周溝墓や土器の出土状況などを詳しく説明している。令和4年度も随時動画を増やしていく予定なのでぜひご自宅で県内の指定文化財と遺跡見学を楽しんでいただき、皆さんの周りにある遺跡に注目してもらえたら幸いである。



東金市道庭遺跡（令和3年度調査）



YouTube動画「おうちで遺跡見学会」

千葉教育 梅（No. 677） 令和4年12月1日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）神子 純一

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3

TEL 043-216-2465

次号予告

『千葉教育』 菜 (No.678)

◆特集 令和の時代の教職員の育成

○シリーズ 現代の教育事情

千葉県総合教育センター所長

神子 純一

○提言

千葉大学教育学部教授

貞廣 斎子

令和4年度 シリーズ 現代の教育事情

蓮 674号	安全・安心な学校づくり
萩 675号	変わりゆく高等学校
菊 676号	困難を抱える児童生徒への対応
梅 677号	個別最適な学びと協働的な学びの実現
菜 678号	令和の時代の教職員の育成
桜 679号	ICTを活用した教育の推進

「千葉教育」は千葉県総合教育センターの
Web サイトから閲覧・ダウンロードできます。

千葉教育
梅号 読者アンケート



表紙写真について

芝山町立芝山中学校 校外学習の様子
(千葉ポートパークでの海岸の砂の観察・採取)